

わが子のあゆみ



滝っ子防災探検 滝呂ブラブラまつり

滝っ子防災探検と滝呂ブラブラまつりは、阪神淡路大震災を教訓とした地域住民のつながり強化を目的とした地域の行事です。滝っ子防災探検は、小学生と中学生、地域の方と協力して、自分たちの住む地区を探検し、ハザードマップを作ります。滝呂ブラブラまつりは、1日限りのイベントで滝呂校区各地の個人宅や集会場、小学校の施設を会場とし、小学生を含む地域住民が街中を回ります。防災に関する防災グッズの展示や炊き出しの訓練・手作りの小物の販売や子供たちに向けた昔ながらの遊びの体験など、いろいろなイベントがあります。イベントを通して、校区住民との交流と防災意識を高めています。また、地域の行事に参加することで、自分のふるさとを大切にすることを育んでいます。

2023.9
No.477
初秋号
第75巻2号

9

たじみしりつたきろしょうがっこう
多治見市立滝呂小学校

「あつじのしんがのしんががこい」

岐阜市立加納小学校

●住所 〒500-8488
岐阜市加納西丸町1丁目73番地2
●TEL 058-272-2028
●児童数 3233名



〈地域の自然や風土〉
加納小学校は加納城三の丸跡地に位置します。校区はかつて栄えた加納城の城下町にあり、清水川、荒田川などの豊富な水資源や流通を生かして、和傘づくりが盛んに行われてきました。

1872年(明治5年)9月、旧加納藩藩校「文武館」が起源である憲章学校と、加納藩内の寺子屋を起源とする曲成義校が開校され、改称を繰り返して合併した加納小学校は、令和4年度に創立150年を迎え、記念行事が行われました。



校舎



学びを深める学習の公開



PTAと連携
「150周年バルーンリリース」



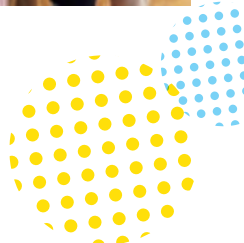
加納城址公園での学級集会



ぎふMIRAI's
岐阜和傘を守りたい
「エゴノプロジェクト」



地域の方と
「清水川清掃および鮎の放流」



学校の教育目標

美しい心で考えてやりぬく子

学校のたからもの① 加納小学校のシンボル「赤門」

本校の正門は、レンガの色から「赤門」と呼ばれ、学校のシンボルとして、児童や保護者、地域の方々、教職員に親しまれてきました。赤門が作られた120年以上前、当初は、岐阜県師範学校の正門として使われていましたが、本校が、岐阜県師範学校代用附属小学校となったからは、小学校の正門として使われるようになりました。大型救急車両等の通行が可能となるよう、主柱間の間隔を拡大したり、建築基準法改正に伴ってレンガとレンガの目地部分の間隔を拡大したりして、平成28年に現在の赤門に建て替えられました。

学校のたからもの② 私たちの合言葉「美しい心」

様々な教育活動の中で行われる、いわゆる「よき見つけ」は、本校では「美しい心見つけ」として定着し、子どもたち同士の間関係を深めたり、一人ひとりの自己肯定感、自己有用感を高めたりすることにつながっています。また、開校以来、研究校、研修校、教育実習校としての役割を担ってきた本校は、学校の教育目標「美



令和4年度 創作オペラサラムンカ公演
「木曾三川物語～千の礎～」

しい心で考えてやりぬく子」の具現に向け、「実践力のある子ども」の育成を研究主題に掲げ、教科・道徳 特別支援教育の研究と同時に、教育実践の基盤として特別活動に取り組んでいます。3年に一度の研究発表会は、PTAの皆様にも様々なところで御協力をいただき、岐阜県内外から参観者をお迎えしています。

学校のたからもの③ 昭和39年から続く創作オペラ

本校の特色ある教育活動の一つに、児童による創作オペラがあります。新型コロナウイルス感染症拡大の影響で、令和2年度のみ中止となってしまうことが、多くの方に支えられて、昭和39年以来、60年の歴史を歩んできました。令和4年度卒業生のお母様に、インタビューすることができました。

Q1「加納小学校に創作オペラが60年続いていることを知っていましたか。」

母：「主人(お父様)も加納小出身で、創作オペラがあることは聞いていました。地域の方にもオペラを鑑賞してもらっていました。伝統あるオペラが全校児童で創り上げられ、児童主体で引き継がれていることがすばらしいと思っていますし、卒業生ならびに在校生にとって、加納小学校の象徴であることは、間違いないと思います。」

Q2「創作オペラへの出演が決まったとき、どんなお気持ちでしたか。」

母：「わが子は、小さいころから歌が大好きで、1年生の時、近所に住む6年生のお姉さんがキャストを務めているのを見て、「6年生になったら絶対キャストをやりたい」と言っていました。コロナの影響で中止になったり、縮小したりして、わが子の年はどうなるのだろうと思っていましたが、マスク着用ではありましたが、通常通り行われることになりました。わが子はオーディションが近くなると、毎日毎日練習をしていました。小学校生活最大の目標であったキャストに選ばれたと分かったとき、私も自分のことのように嬉しく思いました。大役を務まるのだからかと思いましたが、学校でも家でも毎日練習し、時には、友達と励まし合いながら頑張る姿に心打たれました。」

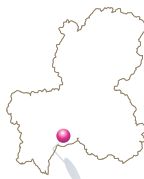
Q3「当日は、どんなお気持ちでわが子を見守りましたか。」

母：「当日は、役になりきっていました。普段のわが子よりも、何倍も大きく見えました。加納小学校みんなで創り上げたオペラに感動して、自然に涙が出てきました。「あきらめず努力する心」「人前で思いを伝える力」「仲間を大切にできる心」、そんなわが子の成長を感じることができた一日でした。この数年、コロナ禍で暗い話ばかりでしたが、明るい未来を見せてもらった気がしました。」

「ほしましりしまはきじょうがっこう」

羽島市立正木小学校

住所 〒501-6229
羽島市正木町坂丸4丁目3
TEL 058-392-5451
児童数 7000名



正木小学校のたからものは、心通うあいさつです。児童は、地域の方と、見守り隊の方と、保護者と、教職員と、仲間と、誰とでも気持ちの良いあいさつを交わしています。いつでも、どこでも、だれとでも気持ちの良いあいさつをすることができると目指しています。



学校の教育目標

夢やめあてに向かつて
仲間とともに進み続ける子

〔地域の自然や風土〕
正木小学校は、明治6年に校区に、反求学校と東隅学校が設立されたことが始まりで、令和5年で学校創立150周年を迎える歴史と伝統のある学校です。校区は、濃尾平野の木曾川右岸にあり、南北に広く、標高7m前後で平坦な地形です。木曾川沿いには水田が広がる一方、名鉄沿線には宅地が広がっています。学校の教育目標は、「夢やめあてに向かつて仲間とともに進み続ける子」です。



校舎



地域の見守りサポーターの方と
ちよつとした会話を楽しむ児童

正木小学校のたからものは、心通うあいさつです。児童は、地域の方と、見守り隊の方と、保護者と、教職員と、仲間と、誰とでも気持ちの良いあいさつを交わしています。いつでも、どこでも、だれとでも気持ちの良いあいさつをすることができると目指しています。

〔1〕登下校でのあいさつ

本校には、長年にわたり、登下校時に児童の見守りをしてくださる多くの「見守りサポーター」の方が活動してみえます。通路の信号機まで一緒に歩いて下さるサポーターさん、交差点に立って児童が安全に横断することを見届けて下さるサポーターさん、集合場所から学校までずっと一緒に歩いて下さるサポーターさんなど、一人一人がそれぞれの事情に応じて活動しています。児童は、サポーターさんと一緒に歩きながら、世間話をしたり、時にはベンチに座って休憩したりするなど、自然な交流の機会となっています。また、集合場所、サポーターさんと何気ない会話を



地域の見守りサポーターの方と
あいさつを交わす児童

楽しむ児童もいます。こうして、児童は地域の方とあいさつを交わすことで、人間関係の幅が広がり、地域で見守られていることを実感しています。この地域での見守りが児童の学校生活の基盤となっているだけでなく、顔の見える関係を築き、正木の子は、地域の見守りの中で今日も元気に育っています。

〔2〕絆会議でのあいさつ

本校が所属する羽島中学校区では、各学校の学校運営協議会のほかに、代表者が集まって「モア学園連絡協議会」を設立し、各学校情報交流をしたり、共通の活動として防災活動に取り組んだりしています。令和4年度には、モア学園連絡協議会の委員と各校の児童が集まって「絆会議」を開催し、「より良い校区にするにはどうしたらよいか」について話し合いました。そこで、校区としての重点活動に、「あいさつ運動」を決め、地域の方や中学生が小学校の門の前に立って、あいさつ運動を行いました。中学生が小学校であいさつをすることで、校区全体で、あいさつ運動に取り組んだことにより、あいさつを通じて人と人の交流が活発になり、児童の爽やかな笑顔が増えました。令和5年度も絆会議を開催する予定です。

〔3〕ボランティア活動でのあいさつ

本校では毎朝、登校後にボランティア活動の一環として、西門、北門、南門であいさつ運動に取り組んでいます。今年度も6年生が中心となってあいさつ運動を続けています。児童らは、「6年生の伝統なので、この活動を続けたい。」「一口を気持ちの良いあいさつでスタートしたい。」「あいさつを返してもらおうと気持ちがいい。」「などと、話してくれました。こうした姿は児童の自主的な活動に加え、絆会議で確かなにしたあいさつのよさを学校で継続している姿です。また、学校の合言葉として、「さきがけ挨拶」を掲げ、自分からあいさつを進んで行う児童を目指しています。

正木小学校のたからものは、心通うあいさつです。令和5年度は、学校創立150周年の節目に当たり、年間を通じて、PTAが主体となつて様々な活動を展開します。これまで大切にしてきたたからもの(あいさつ)を継続し、新たな教育活動やPTA活動を展開します。



絆会議での話し合い



あいさつロードの旗を立てて行う
あいさつボランティア(西門)



あいさつロードで、
あいさつボランティアとあいさつを交わす児童

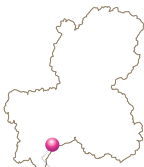


絆会議後に行ったあいさつ運動

「がら〜い〜い〜いまおぼ〜ま〜うが〜い〜い」

海津市立今尾小学校

● 住所 〒503-0321
海津市平田町今尾4434番地
● TEL 0584-66-2137
● 児童数 161名



〈地域の自然や風土〉

今尾小の建っているところには、昔お城が建っていました。今尾の町は、古くは城下町として発達した町で、現在は商業の盛んな町になっています。江戸時代から昭和のはじめ頃までは、米や商品は川を利用した輸送をしていたため、今尾には大きな港があり、舟問屋も数件ある市場も開かれていました。今尾小学校は、大樽川堤の下にあり、今尾商店街の北、今尾城跡の小高い丘に学校があります。校地内には城跡碑、登城門の松並木があります。学校のシンボルはえのきの木です。職員室前にある大きなえのきは、「えのきのうた」という愛唱歌も作られ、「コロナ前は秋に行われる」えのきコンサートでも歌われています。



えの木と校舎



縦割り活動「スマイル活動」



学校の教育目標

進んで やりぬく

学校のたからもの① 仲のよい「異学年交流」

本校のたからものは、学年をこえた縦割り活動です。スマイル活動とも呼ばれ、各学年数名ずつで15人から17人で構成された10グループで行っています。6年生が前日までに遊びを決めて楽しく活動しています。縦割りグループで仲良く遊ぶことを通して、高学年のリーダー性や年上の子が年下の子にやさしく声をかけていく姿が育まれています。スマイルグループでの活動は、「スマイル遊び」他にも、「1年生を迎える会」「スマイル祭」「6年生を送る会」等でも笑顔いっぱい時間になります。

学校のたからもの② ICT機器を活用した授業

Google Meetを活用して、拡大画面に写したり、教室以外の場所から授業に参加したりできます。ブラウザさえあれば実施できるツールのため、児童も職員も活用しやすい環境を海津市に整えていただいています。ICT機器を授業で活用することはもちろんですが、縦割り活動で異学年交流をする際や、イ

学校のたからもの③ 歴史ある地域との連携

毎年2月の第2日曜日に行われる左義長が有名です。校区の秋葉神社の境内で、火を崇め火伏を祈願する「神事」として、400年余りの歴史をもち、岐阜県重要無形民俗文化財にも指定されています。地域人材を活かすために総合的な学習では、「3年生で「千代保稲荷」や「左義長」について調べる際には、左義長保存会の方から直接話をお聞きできます。また、4年生では福祉について学ぶ過程で、近くの特別支援学校との交流を行うたり、5年生の環境、6年生の高齢者や幼児の福祉についても、地域人材から直接話を聞いたりして連携しながら進めています。

学校のたからもの④ 図書館教育

本校では、問題解決学習に役立つ図書館利用を進めながら読書を通して豊かな心を育てる子の育成を目指して図書館教育に力を入れています。図書館も校舎とは別棟にあり、しかも2階建ての学校独自の図書館です。多数の図書や寄贈や、年間14回読み聞かせを行うなど、地域の方々から支援していただきながら、子ども達は大切に本を読んでいます。学校シンボルの「えのき」にちなんで、「えのきブックス」と題して、各学年にお勧めの推薦図書(10冊)が指定されており、学習単元に合わせて完読することを目指しています。毎朝登校すると、1年生は図書館に行くと本を返却し、新しい本を借りることが生活の一部になり、習慣となっています。また、School e-Libraryから1000冊の本がタブレットでいつでも読むことができる環境も整っています。



力を出し切った「スポーツフェスタ」



堀田の田植え体験(4年生)



校舎の外にある図書館



タブレットの活用:講演を聞きながらメモ



保護者参加型の授業参観

郡上市立八幡西中学校



学校の教育目標

健康で心の豊かな生徒

- ・主体的に学び、行動する生徒
- ・感謝の心とつながりを大切にする生徒
- ・たくましく生きる生徒

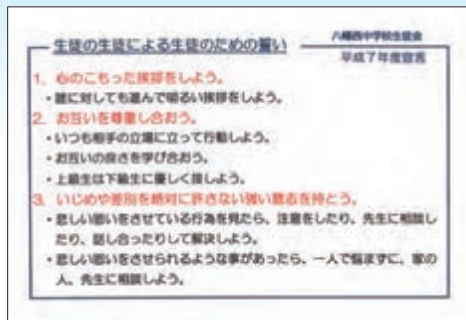
住所 〒501-4207
郡上市八幡町西2-54番地1
TEL 0575-63-2220
生徒数 59名



〔地域の自然や風土〕
本校区は郡上市南部、国道156号線沿いと256号線沿いに渡って広がっています。周りは山林に囲まれ、国道に沿って長良川や、その支流である那比川・亀尾島川が流れる自然豊かな環境です。夏には鍾乳洞や鮎釣り・溪流釣りに多くの人が訪れています。また、令和4年度には「郡上踊」がユネスコ無形文化遺産に登録され、本校においても体育祭の種目のひとつとして保護者や地域の方と一緒に郡上踊に親んでいます。



歴史ある校舎



人権宣言「生徒の生徒による生徒のための誓い」

はじめに
本校では学校の教育目標のもと、願いや目標をもち、その実現のために必要な資質・能力を主体的に身に付ける生徒の育成を目指しています。今年度は「WAKU・WAKU八西中」を合言葉に授業や特別活動等において、生徒も職員も共にワクワクできる活動となるように工夫した取組を大切にしています。
また、平成7年度に生徒会によって制定された八西中人権宣言「生徒の生徒による生徒のための誓い」のもと、生徒会による「つながりと感謝の心」を大切に活動が展開されています。

学校のたからもの「つながりと感謝の心」を大切に活動

① **全校のつながり**
4月、新入生を迎える「スタートの会」では、生徒会役員（実行本部）が校内オリエンタリングを企画運営しています。1〜3年生を9つの縦割りグループに分け、校舎内を回りながら各教室に用意された学校クイズ（問題）を解き、各指令に添えていくものです。

各グループが1台タブレット端末をもち、各問いに対する答えを相談してタブレット機能を使って実行本部に送ったり、実行本部より送られてくる指令で仲良く映る写真を返信したりしました。新入生に学校のことを楽しく知ってもらい、なおかつ学年間の距離を縮め、安心してもらえる活動を工夫して行うことができました。
また、毎朝、自主的に生徒玄関に立つて学年関係なく、気持ちのよい挨拶を交わすことができています。そして体育祭や合唱祭等の全校行事においても、学年の枠を越えた「よさ見つけ活動」が行われ、掲示やお昼の放送等を利用して、仲間の頑張りやよさを全校で認め広めています。

② 地域とのつながり

校区では以前より公民館活動が盛んに行われており、中学生も地域の一員として公民館活動に参加しています。
公民館活動は「地域部」「保健体育部」「文化部」「青少年部」等の部会を設けて、それぞれ活動が行われています。全校生徒の半数以上が中学生理事として各部会に所属し、大人と一緒に企画から参加し、年間を通して運営にも携わっています。休日に行われ

る活動当日には、訪れる地域の方々とも積極的にコミュニケーションを図り、地域活動に貢献しています。

③ 福祉活動における「つながりと感謝の心」

生徒会では毎週金曜日を「ふくしの日」と位置付け、登校する時に家にあるアルミ缶やペットボトルキャップを持ってきて集めています。収益金を人の役に立つことに活用したいという願いをもって取り組んでいます。回収率はどの学年も毎回90%を超え、生徒による主体的な活動となっています。
ペットボトルキャップは、ポリオワクチンに換える支援活動として毎年行っており、昨年は84人分を寄付することができました。アルミ缶等の収益金は、昨年度はお世話になっている地域のために役立てていただくことと公民館に寄付しました。

④ 合唱における「つながりと感謝の心」

本校では、先輩たちから受け継いできた伝統のひとつである「合唱」を大切にしています。仲間と心を一つにし、聴き手を感動させられる合唱を創り上げようという思いで、日々の合唱練習に取り組んでいます。秋に行われる合唱祭に向けて各学級でのつながりをさらに深めるための取組を行ったり、他学年との合唱交流を行い合唱の質をさらに高めようとしていたり、日頃、大事にしている「つながり」を、合唱を通して表現することを目指しています。

また、授業参観や講演会などの機会に合唱を披露し、お世話になった方々への感謝の気持ちを伝えていきます。



校内オリエンテーリング



公民館活動(相生スポーツテスト)



ふくしの日の活動



公民館活動(相生マルシエ)



感謝の心を合唱で!

7月号を読んで

県内各地の小中学校の様々な様子が写真入りで見ることが出来、面白くて毎号楽しみに読ませていただいています。今号は「私たちのPTA」に北和中が紹介されていたので嬉しかったです。記事は勿論、イラスト&クイズや漫画研究部の漫画も含め、隅々まで1頁1頁読んでいます。(Tさん)

「親子でサイエンス!」をさっそくやってみました。コミュニケーションになりますし、物作りや科学の楽しさを親子で共有できる時間がいいです。これからも楽しみにしています。(Tさん)

お試しクッキングのフルーツポンポンを子どもと一緒に作りました。よくゼリーは作りますが、ラップで作るのは初めて。とても簡単に作る事ができました。人にプレゼントするのもいいですね。(Tさん)

保健室ノートの「性の多様性」についての話が興味深かったです。これからの時代を生きる子どもたちには大切なテーマですね。(Kさん)

「みんな、いっしょに」の車椅子体験は素晴らしい体験だと思います。不便さを知ること、心遣いのできる子どもになってほしいです。(Dさん)

「将来の夢(目的)に向かって、目標を決めて取り組む」。子どもたちに望む姿の一つだと書いてありました。私も共感しました。小学生の息子に将来のことを聞いてみました。「好きなことはゲーム、将来何がやりたいのかは分からない。」と言いました。確かに将来のことは簡単には決められないし、難しいことです。まずは、話を聞いて、やりたいことを一緒に考えて、ゆっくり見つけていこうと思いました。やりたいことが見つかったときは、応援してやりたいです。(Iさん)

「親の願い」に新会長になった方の文章「子育てから得たもの」が載っており、どんな方なのか興味があり読ませていただきました。6人の子育てを通じ、PTA活動にも参加され、保護者や学校の先生とのつながりを持たれました。子どもの成長に合わせ、自宅にそれぞれの友達が遊びに来るようになると、その友達とも交流を持ち、子どもたちにも寄り添っている様子が伝わってきました。子どもを通じて広がった人のつながりが大切にされている事を素晴らしいと思いました。(Sさん)

毎号楽しく読ませていただいています。岐阜県内の色々な学校の活動が分かるので勉強になります。クイズもとても勉強になります。アップデートできますね。(Kさん)

「親子でサイエンス」の紙飛行機に息子と一緒に挑戦しました。とても簡単に作れるので、紙の大きさを変えて沢山作りました。今までの物よりよく飛ぶし、見たことのない飛び方をするので、とても楽しかったです。(Sさん)

もくじ わが子のあゆみ 2023.9 No.477 初秋号

- 表紙 多治見市立滝呂小学校
- 1 学校のたからもの
岐阜市立加納小学校/羽島市立正木小学校
海津市立今尾小学校/郡上市立八幡西中学校
- 11 特集 第44回岐阜県PTA連合会定期大会
記念講演「家庭でできるアクティブ・ラーニング
生活の中で自分で考える力をつける(前編)」
教育デザインラボ代表理事 石田 勝紀 氏
- 17 みんなで家庭教育!
岐阜県環境生活部環境生活政策課
- 18 先生!ありがとう!
保護者から先生へ贈る感謝の400字メッセージ
- 19 「多様性尊重の教育⑩」
みんな、いっしょに 安田 和夫
- 21 保健室ノート 村瀬 美由紀
- 23 私の先生⑥ 細江 凜
- 25 わが家の宝物 加藤 雅章
- 26 リレーエッセイ⑫ 金澤 由希
- 27 子育て半生記 山下 加奈
- 29 楽しい読み聞かせ⑫ 岐阜市立島小学校PTA
- 31 親の背中⑩ 金森 佳之・篠原 直樹
- 33 私が出会った1冊の本【続60】
勝野 絵理奈・藤木 大樹
- 35 子の思い 後藤 直喜・林 寛太・小栗 遥音
親の願い 村山 弘明・中島 路世
教育の窓 西村 由紀・鈴木 雄詞
- 40 話そう!語ろう!わが家の約束 松岡 卓司・那須 孝恵
- 41 親子ではてな
- 42 お試しクッキング
岐阜県学校栄養士会・(公財)岐阜県学校給食会
- 43 ふるさとの伝承 岐阜市立鏡島小学校
- 45 ざらり!キッズ! 大垣市立多良小学校
- 47 夢中!熱中!我らが部活 郡上市立高鷲中学校
- 49 私たちのPTA 羽島市立福寿小学校PTA

「昔はこうだったね」と
明るく話せる未来のために

いまの「ちきゅうずかん」を
「昔はこうだったね」と話せる、
地球の健やかな未来のために
いま、私たちが、やるべきこと。
それは一人ひとりが、自分に関係する
問題として考え、行動すること。

私たち三井住友海上が、
社会のサステナビリティを実現するために
取り組むべきテーマ、それは、地球環境との共生。
損害保険事業を通じて
気候変動リスクに向き合うとともに、
自然資本や生物多様性の保全・回復に取り組むこと。

地球環境との共生に向けて
生態系の劣化や自然資源の枯渇といった
乗り越えなければならないテーマへの挑戦を保険で支え、
ネイチャーポジティブな地球の未来に貢献する。
それが、私たちの使命であり、約束です。

一番のリスクは、いま、なにもしないこと



※一般的に、自然資本や生物多様性の毀損に歯止めをかけ、自然を回復させる、または回復軌道に乗せることをいう

ネイチャーポジティブに資する商品・サービス

自然資本・生物多様性の保全・回復に資する商品・サービスの提供、投融資を通じて、ネイチャーポジティブな地球の未来に貢献します。

駿河台ビルの屋上緑化

駿河台ビル・駿河台新館の緑化面積は敷地全体の40%超に相当し、30by30[®]実現を後押しする生物多様性豊かな空間を維持しています。

※2030年までに世界の陸地と海洋の30%以上を保護・保全地域とすることを目指す国際目標。

MS & ADグリーンアースプロジェクト

自然環境の保全・再生や環境負荷低減、防災減災・地方創生に取り組む活動「MS & ADグリーンアースプロジェクト」を展開しています。

三井住友海上
MS&AD INSURANCE GROUP



「家庭でできるアクティブ・ラーニング 生活の中で自分で考える力をつける」

前編

教育デザインラボ代表理事 石田勝紀 氏



〈講師紹介〉
一般社団法人 教育デザインラボ 代表理事。公立大学法人 都留文科大学 国際教育学科 元特任教授。
東京大学大学院教育学研究科修士課程修了。20歳で学習塾を始め、これまで4000人以上の生徒に対し、「心を高める」「生活習慣を整える」「考えさせる」の3つを柱に指導。学力を上げ、自己肯定感を高めてきた。35歳で経営の傾いた東京の中高一貫私立学校の常務理事に就任し、大規模な経営改革を実行し、経営改善を図るとともに教師の指導力を高める。

皆さんこんにちは、初めまして石田と申します。

今日は、一言で言うと考える力ですかね、これをどうやって高めていくのかという、これがそんなに難しくはないんですよ、ある声掛け、言葉掛け、対話をするというのを通じながら、心のスペックを上げていくような感じですよ。これについてお話をさせていただきたいと思っています。

「教育」が始まったきっかけ

私は20歳の時に塾を作りましたが、実は、20歳というのは、私の人生、どん底の時だったんです。

私は地元の横浜の中学に進学したんですけど、この中学は不良ばかりの中学校でした。1学年400人いて、10クラスあったんですが、そのうちの80人が不良でした。皆リーゼントとか、長ランの裏地には龍の刺繍がしてあるみたいな。



そんな所でしたから成績は結構簡単に取れますよね。何故なら、当時相対評価といって、5段階評価の内、1が何%、2が何%って割合が決まっていたんです。今考えると怖いなあと思うのは、クラスの中に1を取っていた子が絶対いたわけですよ。そういう中で、不良さんたちが1と2を全部取ってくれるんですよ。だから、我々平民は、3・4・5しかない成績。だから適当にやっていた3。オール4が普通みたいな感じだったんですよ。しかも不良が多い学校なので、先生たちもテストの問題、数学なんかとても優しいわけです。でも、計算問題なんかで、一問計算ミスすると成績4になっちゃうんですよ。で、どうやったら満点取れるのかって、計算ミス

なくす方法をいろいろ編み出すんですよ。最終的には、それで5が取れるようになり、神奈川県の一応進学校と言われている学区のナンバワンの所に行きました。行ったんですけど、ここは各地のナンバワンの、ナンバーツーが来ますでしょ。私みたいな不良学校のナンバワンとお上品な中学校のナンバワンは格が違うんですよ。それを知っていたので、高校1年の最初のテストは猛烈にやりました。これでもかっというくらいに猛烈に勉強して、1クラス40人中10番だったんですよ。がっかりしたんですよ。だって死ぬほどやっただけですよ、これ以上無理っていうくらい。それで1番取れないんだもん。今日のこの話は後で続くんですけどね、簡単に言う勉強のやり方を間違えているという事なんです。

当時私は、プライドだけは高かったんですよ。東大に行くんだと。理由は男だからみたいな。意味が分からない。「理系でしょ、やっぱり理系だよ男だったら」みたいなね。全然著にも棒にもかからないですよ、話にならない。それで、勉強を頑張りました。間違った勉強です。何しろ考える力がなかったんで、点数取れないんですよ。記憶だけじゃ無理なんですよ。そんなの全然分からないままやっていて、それで、案の定浪人しました。

そこで、私は理系から文系に変えたんですよ。何で変えたか。多分逃げですね。理系では勝てないなと思って逃げた。その後、国立文系を狙うんだけど、数学が出来たんですよ。数学が出来



ると、国立文系クラスで上位に行くんですよ、総合で。でも勘違い。英語と国語が致命的だから、勘違いなんです。でも、まだプライドだけは高く、「じゃあ、東大は社会が二科目必要だから、一科目だけでいい一橋大学だ」みたいなね。これも、もう無謀なんですよ。

その後、一浪だから、国立一本じゃなく、嫌だけど、早稲田と慶応を滑り止めにしようみたいな事言っていたんですよ。話にならないんですよ全然。嫌なやつですよ、今思い起こしても本当に最悪だと思うんだけど。それで受けましたが、全滅しました。勉強だけは結構やっていたんですよ。だけど全滅しました。

その時私はね、神も仏もないんだと思っちゃいます。努力は報われないものなんだと思って、庭で問題集、参考書全部焼き捨てました。たき火です。全部燃やした。捨てるだけじゃ我慢できなかったんですよ。そこから、大学へはもう行かない。もうやる気もない。今で言うとニートです。働かない、学ばないというのを20歳になる時の年に経験しました。目標もないんですよ。何をやりたいかというのもない。引きこもりっていうのに近いかな。しかし、通信添削のZ会というのがあります。あれだけを、何故かけじめのつもりで、英・数・国だけやっていました。

当時、月2回来ていたと思うんですけどね。暇だから、やる事ないので、月2回の添削を時間掛けてやるわけです。今でも覚えてます。国語の偏差値40前後でした。でも、偏差値関係ないんですよ。大学に行かないだから関係ないですよ。偏差値なんて低かろうが高かろうが関係ないんですよ。でも、暇だから、「何で違っているんだろ？」っていう事を考えるようになっていったんですよ。ちなみに私は、それまで本を最後まで1冊も読んだ事のない人間でした。読書感想文は後書きだけ読んで書いていました。つまり、国語はもう、全部避けていたんですよ。つまりね、読解力がない。読解力がないから他の科目も頭打ちするわけです。その致命的な部分であった国語の偏差値は40前後でした。しかし、暇だから、読まない新聞も読みました。やる事何もないから。それで、更に暇だったので、車の免許でも取るかと思って行ったんですよ。通いでね。一ヶ月で取れました。毎日、暇だから行くじゃないですか。そんな中、ちょうど半ぐらい経った時に、国語の偏差値が70代後半、全国で2番とか3番とか出ているんですよ。その後、一ヶ月くらいタイムラグがあって、英語と数学がドン！と上がり出しました。その時、「何、これ!」って思ったんですよ。「何?この上がり方」って。そこで、「もしかして、考えるってこれ?読解力ってこれ?」みたいな事を思うようになりました。また、これが分かっていたら他の科目も上がるのに、何で教えないのって思ったんですよ。これ出来たら万能なのになんて思っ

たんです。でも、まだその頃は、何も目標もない、人生の目標ゼロ。ニートですね。ちなみにその間、うちの両親は二人でエンジョイして旅行に行っていました。私が後年ね、「あの時はめっちゃ辛かったんだよね」って言ったの、うちの母親天然系だから、「えっ、そうだったの？」とか言ってるね。まあそんな感じの親でした。それも又良かったのかも知れません。今振り返るとね。深刻じゃなかったの。父親はちよっと心配したかもしれませぬけど。

そんな時、秋になって、うちの父親が脱サラしてビルを建てるって言うんですね、小っちゃいビルを。それで、私が暇していたから、うちの父親に「お前何かやらないか？」って言われたんです。大学行けとは言わないですよ。「塾でもどうだ」って言われたんです。「ああ塾か…」と。そこで私が思い付いたのは、車の免許持っていたでしょ。「あ、塾やったらお金が入る。そしたら新車買える」って。これで火が付いたんです。「おー、やるやる」みたいなね。でも、当時、子どもたちのためにいい教育やろうなんてみじんもないですね、日本の教育どうのこうのもみじんもなく、車を買えるというだけの純な動機でした。

「そうやな、塾やるには、大学行かんといかんね」と思って、それで大学どうしようかって考えたのが、駐車場がある大学を探したんですね。読解力が上がったんですけど、人間レベルはあまり上がってないですね。それで、探してみたら、青山学園大学には広大な学生駐車が

道が見えて来る。そういう流れでしたね。それ以来、20歳で起業してから35年経ちました。今は現場ではもう教えてはいませんが、中学生の勉強法という講座を年4回ほどやってまして、Zoomで全員参加してもらってますが、年間4000人くらいの子たちを教える来て、そこらいろいろノウハウが生まれて来ました。

7年くらい前、子どもたちを教えるいて、ある事が分かったんですね。それは何かというと、親がポイントだなという事です。特に母親。父親の場合も勿論あるんですが、人間というのは、接している時間の長い人の影響を受けて育ちます。ママさんの時間はやっぱり長いですよ。子どもが変わっても、家でまた元に戻って塾に来るといのがあって、変えても変えても元に戻されちゃうというのがあったんです。そんな折り、あるママさん4人に来て貰って、カフェで座談会のような事をやろうと思ったんです。なぜかという東洋経済オンラインという記事がありました。その中で、ママの質問に答えるというのをずっとやっているんですが、これをオフ会でやりたいなと思ったのがきっかけです。そしたらですね、親って変わるんだって思ってたんですよ。びっくりしました。凄く変わるんですよ。それと同時に分かった事は、ママさん大変、超大変。毎日ご飯を作っている。掃除・洗濯やりますでしょ。後、子どもの教育もママさんに結構負担がかかっているんですよ。それで仕事でも持ったら、スーパーマンだよ

あると。「ああいいなこ」と。すぐ新車買おうと思っていたからね。それで、過去質問って来ます。もう、考える力があるから、過去5年間見たらパターンが分かるんですよ。ダミーの選択肢がどう使われているのかも全部分かる。足りない知識の所だけちょこちょこ補って。塾の開設準備を毎日やっていてですね、友達誘って、夜な夜なピラ配りをして、大学入試の前日の夜遅くまでピラ配っていましたから。友達に、「明日ちよっとごめん、大学受けて来るね」みたいな感じでした。

それで、マンシヨンの一室に40数人の小中学生が来たんですね。ここからです。部活とか終わって、皆疲れているのに来るんですよ。こんなド素人相手に。見ていて、何だかわいそうになって来て、「ああ、こいつら何とか上げてやろう」と思って、そこから「教育」が始まったんです。だから、お金とかという概念がなくなって、成績が上がるまで教えたから、授業料の3倍くらい教えたんですね。そんな中でノウハウが見えて来たんです。勉強ってつまんないじゃないですか普通。出来ればやりたくないでしょ。だから、頭の使い方、考える力とか読解力というのを子どもたちにインストールしちゃうおうということをやりました。そうすると、最少の努力で最大の成績が上げられるんです。成績上げるって、やり方があるんですよ。だけど皆やり方を知らないだけなんです。そういうふうにならば、子どもたちをどんどん上げて行っただけです。

ねって。こりイライラするわって思っただけですね。じゃあ、そのイライラをワクワクに切り替える事が出来ないか。こうやると子どもがこうなるよというノウハウを持っていたので、相談を聞きながら、こうやってみたらなどとアドバイスする事を始めたんです。ちょー楽しかったんですよ。一回で終わりにしようと思っただけですけど、楽しかったので、今、年間130回やっています。それでこの7年で、1万人のママさんの直接相談を受けて来ました。これで、イライラの原因は何かなど、いろんな事が分かって来ました。ママさんが変わると子どもが変わって、子どもが20年後、30年後の世の中作りますよ。だから未来が変わるんです。そういう事を今、活動の中心でやっています。

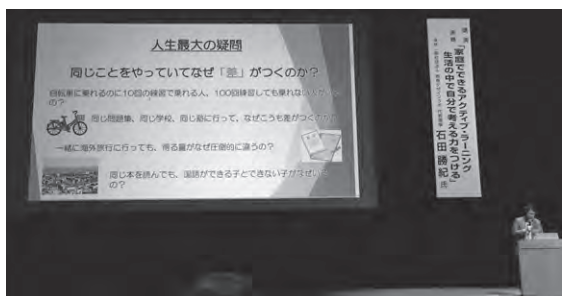
同じ「学校、塾、問題集」を使って、なぜ差が付くのか？

まずですね、人生最大の疑問と書きましたけど、同じ事やっていてなぜ差が付くのかという疑問です。例えば、自転車とか、10回くらい乗ったらすっと乗れちゃう子もいれば、100回回しても乗れない子がいたり、後、同じ問題集とか、同じ学校や塾に行っても何で差が付くのかって、思いませんか？同じ勉強、同じ時間数、同じ物を使ってやっているのに、何で差が付くのかって。

以前視察で、色んな学校の先生たちとアメリカに行った事があるんです。その中である私



子どもたちに対して最初感じたのは、自己肯定感が低いなと思いました。今で言う自己肯定感。当時その言葉はなかったんですが、勉強でつぶされているなと思いました。だって、小学校1年生から約12年間、小1から高3くらいまでテストとか勉強ばかりでしょ。どっかで一回くらい入試を経験するしね。そうするとほとんど勉強なんですよ。勉強の世界だけで、いわゆる偏差値尺度だけで評価されちゃう。勉強以外の才能を持っている子はいっぱいいるのに、そっちの尺度は無視して、勉強一本で評価されちゃう。そうすると、成績が良ければまだいいけど、そうでなかったら「駄目だな自分」ってなりすよ。偏差値尺度なんて数ある中の一つでしかないのに、その一本で評価されてしまっている悲しい現実があるんですよ。だから、彼らとその学力でへこんでいて自己肯定感が低いんだしたら、上げればいいんだという事で、ガンガン成績を上げて行っただけです。すると案の定、自信を取り戻すんですよ。それですよ。自分のやりたい事、自分の進みたい

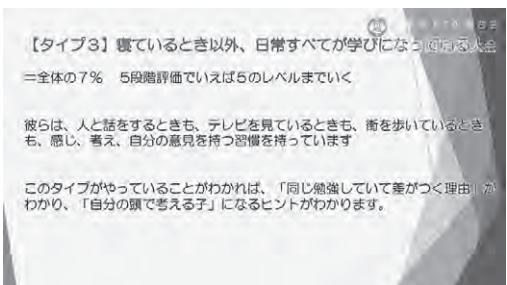


学校の校長先生と一緒にのグループで歩いたんですが、凄いですよその先生の興味関心の度合いが。同じ所を歩いているのに受け取っている情報量、問題意識の差が天と地ほど開いているんですよ。凄いなこの先生って思いました。後、同じ本を読んでも、読解力の付く子と付かない子が

いたり、身に付く子と身に付かない子がいたりしますよね。これ、同じ条件で同じ事をやっているのに何で差が付くのかって。その原因として、大きく3つのタイプに分けると思っています。1つ目は、学んでいるように見えるんですけど、とりえず授業を受けています、座っています。だけど内面的には学ぼうと思っていない。5段階評価で言うと3以下のゾーンですね。約7割がざっくりこの状態です。椅子に座って、黒板に書いてある事を書き写したり、一応作業はやっているけど、殆ど身には付いていない。とりえずやっているという感じ。このタイプは、勉強に対して意味を感じていないんですよ。そもそも勉強は、皆がやっているからやるとい

う感じですね。こういった子たちには、モチベーションを上げるといふ事から始めます。

2つ目のタイプは、授業中めっちゃやっている、学んでいます。これがだいたい25%で、5段階評価で言うと4くらいまで行きます。授業をしっかり受けて学んで、家でも予習、復習、宿題と勉強する時間はそれなりにやっている、めっちゃくちゃ頑張っているわけではないけどそれなりにやっています。こういったタイプの特徴はですね、両立という言葉をよく使いますね。部活と勉強の両立とか、勉強と遊びの両立とかね、こうやって両立という言葉をよく使います。後、気合い・根性・努力が是である、つまり頑張れば何とかなるだろうと思っている人たちですね。また、上位に入れないと、「こんなに頑張っているのに、何で自分は出来ないんだろう、あいつは出来るのに」と、自分を責めたり嫉妬する傾向もあつたりします。



3つ目のタイプは、寝ている時以外全部学びになっている人。子どももそうです。だいたい5〜7%です。彼らは、人と話している時もテレビを見ている時も街を歩いている時も何か感じている人



るんです。このパソコンの中にはOSというが入っています。オペレーションシステムズと言います。ウインドウズ、あれはOSの名前でですね。後、スマートフォンの中にもiOSとかAndroidという名前があるでしょ。あれ、OSの名前です。このOSの上にソフトがインストールされて乗っかっています。パソコンだと、ワード、エクセル、パワーポイントであるでしょ、あれがソフトです。スマホだとアプリって言いますね。このOSにはバージョンがあるんです。例えばウインドウズって、最初に世の中に広がったのは1995年。だからウインドウズ95って言います。今、ウインドウズのバージョンは11ですかね。バージョンどんどん上がっています。ワード、エクセル、パワーポイントなどのソフトもバージョンが上がっています。じゃあ、今最新のワード2023のソフト

ですよ、何か考えている。さらに自分の意見を持つんです。全てが学びになっていくんです。これは敵わないですよ。でもいるんですよ。こういう子が本当に。ちなみに私、今から10年くらい前に、東京大学の大学院へ行っただけです。そこに行つて、教育学って勉強した事がなかったの、面白かったですね。自分が今までやって来た事をしっかりと体系的にまとめられたりするの。

それでね、東大生といっぱい話をして来て、面白いな、ある一定の傾向があるなと思った事があるんです。彼らは、まず、人の話を、雑談的な日常の話でも良く聞いています。更にその後、それに対して自分の意見を加えるんですよ。彼らはそれが当たり前になっていくんですよ。だから、理解もするし、記憶も出来るでしょ。自分の意見を言うんです、ちゃんと考える。だから頭動いているんですよ。凄いな、こんなふうなやっつて習ったのみたいな。あとあと分かった事は、それ習ったのではなくて元々ですね。実際私があるんな子どもたちを見て来ていますけど、そのスペックを持っているかどうかは3歳くらいで分かりますね。後でお話しますが、生まれつきなんだけど、そのスペックに持って行くことは出来るんですよ。後天的に後から。だけど、そのノウハウがないので、皆そのまんまスペックを上げる事せずに生活しているから「勉強は覚えればいんだよ」ってなっちゃうんですよ。

つまり、タイプ3というのは、日常全部から学んでいて、授業受けている時だけではないという事です。

OSとソフトの関係がキーポイント

さてそこで、「考える力」って何ですかね、皆さん答えられますか？これ難しいんですけど、ただ普通に使っていますよね。「ちゃんと考えるように」とか「皆で考えてみよう」って、何ですかね「考える」って。この考えるという事をなぜ教えないのかという事なんです。少なくとも私は、学校教育、塾も含めて、「考える」とは何かというの一度も教わった事がない。子どもたちに聞いてもよく分からない。大人の方々に聞いても考えるっていうのを教わった事ありません。いや知らないですね。チョコちゃんに叱られるっていう番組ありますよね、NHKの。あれは、それをやっているんですよ。「なぜ、これこれだと思ってる？」って言われて、みんな「うーん？」ってやるでしょ。あれを考えるって言うんですよ。でも答えられないから、「ボーっと生きてんじゃねーよ」って怒られるでしょ、チョコちゃんに。みんなボーっと生きていますよ。私もそうです。

さてそこで、この考えるっていう所に関わって、OSとソフトのお話をします。パソコンというのは、人間の脳を模写して作っています。人間の脳と同じ構造で作って

トをウインドウズ95にインストール出来ると思いますか？出来ないですよ。OSのバージョンが違うからインストール出来ません、もしくはフリーズしちゃいます。そういう子どもたちが世の中にいっぱいいるという事なんです。人間の頭脳にもOSがあるんです。OSとソフトで構成されている。このOS、これが考える力というやつです。別名、地頭です。例えば小学校4年生の子どもたちがクラスに40人いたとしますね。年齢は同じだけどOSのバージョンはバラバラです。でも、小4になると、授業で小学校4年生の国語、算数、理科、社会っていう科目をインストールしますよね。OSのバージョンが高い子だったら全部入ります。そのソフトは稼働します。しかし、バージョンが低かったら、動かないじゃないですか。フリーズするでしょ。こういう子がいっぱいいるという事なんです。なのに、学校は、このOSという概念がないままソフトをインストールしてしまうんです。5年生になったらソフトのバージョンアップ版をインストールしますね。中学校になつたら、中学校という新しくバージョンアップしたソフトをインストールします。「何で入らないの？」って、OSのスペックが低いからなんです。じゃあ、このOSのバージョンはどこで決まるんでしょう。パソコンの場合は、出荷段階、人間は生まれた時に搭載されます。私の感覚では、5%くらいいますが、これは何も

なくともガンガン入って行くので、中学受験でトップクラスに行っちゃう連中です。読解力

があるから、考える力が元々搭載されているので、本読んでもガンガン読めるわけです。けども、ほとんどの場合、バージョンは低いんです。だから、年齢と共にバージョンが上がって行くんですよ。じわじわじわじわと。けども、「考える」っていう事をやっつて行かないとバージョンは上がらず、そのまま固定したままズーっと行くわけです。そうすると、ソフトはもうインストール出来ない。しょうがないから丸暗記で行こうとなっちゃうんです。こういう子がいっぱいいるっていう事です。ここが正体だという事なんです。でも、幸いにしてですね、後天的にこの頭脳のスペックを上げる事が出来る。つまり、考えるという状態に持って行くことが出来るんですよ。これを今まで数々やって来たんですね。そこで、今日は、その方法の一つをお伝えしようと思います。

このOSの正体が考えるということだというのは何かという事で言うと、代表格は次の2つです。

1つは疑問に持つ力。もう1つはまとめる力、この2つです。これが付いて行くと間違いなく頭脳のスペックが上がるんです。頭脳のスペックが上がるから、ソフトのインストールはたやすく出来るという事です。

家庭で子どもに教えたことや、育みたい力など、家庭教育のヒントになる情報をお伝えします！！

みんなで家庭教育!

お子さんに「ありがとう」の気持ちを伝えていきますか？

な子育てができてきているのかな」と不安に思ったことがあるはずです。子どものためにできることといえば、本の読み聞かせ、スキンシップやコミュニケーション、栄養バランスのとれた食事、習い事、旅行などがありますが、「頭でわかっていてもそんな余裕はない」と言われる方も多いのではないのでしょうか。

でも、簡単にできることがあります。それは、子どもに「ありがとう」と言うことです。「ありがとう」という言葉には、感謝の気持ちだけでなく、相手に対する愛情、尊敬を伝え、存在感を肯定するというパワーがあります。そんな言葉を投げかけてあげれば、子どもは「忙しくても、親は自分のことをちゃんと見てくれる」という安心感に包まれます。

親子で「ありがとう」の交換 中濃管内の小学校では、多くの学校が、在宅型の家庭教育の取組として、親子で良いところを見つけ「ありがとう」の思いを伝えあう活動を実施しています。

関市内の小学校では、児童会が中心となって作成した「ほかほか言葉50音」というカード風の言葉を積極的にカードの文章に引用し、カードを渡した時にありがとうの気持ちにより伝わるように工夫しています。

「○○くん、庭の草引きの手伝いをしてくれてありがとう。おかげで、とても助かったよ。」 「らくせずに、働く君がかっこいい!」(※ほかほか言葉50音) 美濃加茂市内の小学校では、「ありがとう週間」を設けて、保護者から子どもに「ありがとうカード」を1日1枚渡し、子どもが台紙に貼っていく活動を

よく、保護者の皆さんから、「ほめることが大事とよく言われますが、小学校6年生の子どもに『よく頑張ったね』と

動を行っています。また、夏休みの「ありがとう週間」では、今度は子どもから保護者に「ありがとうカード」を1日1枚渡す活動も行いました。

「ありがとうと言われると、心が温かくなるから、これからもやろうと思った。」(2年生) 「毎日慌ただしく過ぎていく中で、なかなか声をかけてあげられなくて、悪いことばかり目について怒っていました。この取組の中で、子どもが頑張っていることや私を助けたこと、ありがとうの気持ちを感じることができました。これからも声をかけていきます。」(保護者) また、郡上市内の小学校では、「ありがとう」の思いがさらに伝わるように「ハグしてありがとうの気持ちを伝えよう」と、スキンシップ活動を併せて実施しています。

普段の家庭や暮らしの中で、子どもが手伝ってくれたことや、自ら実践できた時に、当たり前のことと受け止めず、「ありがとう」の気持ちを言葉で伝えれば、きっとたくさんの方々が返ってくるのではないのでしょうか。

中濃県事務所 振興防災課 家庭教育推進専門職 塚原 紀子



「感謝の気持ち」を伝える

近年、働き方改革などで制度が充実してきたとはいえ、やはり子育ては大変です。忙しい方なら誰もが「私は十分

先生！ありがとうございます！

保護者から先生へ贈る感謝の四〇〇字メッセージ

子どもたちの笑顔あふれる運動会!

南小学校の運動会は、コロナ禍で中止や2学年単位に縮小していましたが、今年度3学年単位の2部制となりました。声出しができるようになり、子どもたちがいっぱい仲間を応援していました。今年から得点も付けて団で競い合うなど、子どもたちも自分たちの順位に一喜一憂して盛り上がり、一元の運動会が少しずつ戻ってきたという印象を受けました。これも、子どもたちにかかるといふ経験や思い出をつくらせてあげられるかと、先生のみなさんが考えていただいた証だと思っています。運動会の運営にあたっては、テントの手配や設営、競技を予定通りに進めるための日頃の体育での練習など、先生方のたゆまぬ準備があつての運動会だったと実感しています。保護者を代表しまして、子どもたちの笑顔あふれる姿を見ることができ、先生方には本当に感謝しております。先生！ありがとう。

(瑞穂市立南小学校PTA会長 森田 陽介)

information

■作品を募集しています。

イラスト・なぞなぞ・逆さ言葉などの作品を募集しています。イラスト・絵手紙はハガキの裏面に描いてお送りください。ペンネームを使う場合にも、郵便番号、住所、学年と氏名を表面に記載してください。なぞなぞ・逆さ言葉は「親子ではてな」の回答とともにお願いします。

宛先はいずれも

〒500-8816 岐阜市菅原町3-3 岐阜県校長会館内「岐阜県PTA連合会・作品係」まで

採用の方にはお礼をさしあげます。

■本誌の購読について

本誌は年間5回発行(7・9・11・1・3月)されます。年度初め(4~5月)と7月の2回、各学校PTAを通じて購読募集を行います(1冊200円、5冊1,000円)が、年度途中でもお求めいただけます。学校または県PTA事務局へお問い合わせください。

■11月号のお知らせ(予告)

特集=定期大会講演「家庭でできるアクティブ・ラーニング~生活の中で自分で考える力をつける~(後編)」/表紙=八百津小/学校のたからもの=付知北小・三枝小・明郷小・谷汲中/わが家の宝物=明世小/リレーエッセイ/みんなで家庭教育/みんな、いっしょに/保健室ノート=尾崎小/私の先生=長森東小/子育て半生記=上多度小/楽しい読み聞かせ=大矢田小/親の背中=席田小・東可児中/1冊の本=串原小・萩原北中/わが家の約束=本田小・西中(大垣市)/子の思い=南郷小・且格小・桑原学園/親の願い=之瀬小・下有知中/教育の窓=下羽栗小・東中(美濃加茂市)/先生!ありがとう!=神坂学校/お話しクッキング/ふるさとの伝承=白川郷学園/きらり!キッズ!=鷺山小/夢中!熱中!熱中!我が部活=大野中/私たちのPTA=根本小

「聞こえているのに頭の中に入ってこない」って、どういうこと?

岐阜聖徳学園大学教育学部特別支援教育専修 教授 安田 和夫

「手話る」の活動を通して

この4月、特別支援教育に関心を寄せる学生が、目を輝かせて、本学に入学して来てくれました。現在、その多くが、金曜日のお昼に開催している「手話る（手話学習会）」に集まってきて、手話によるコミュニケーションを楽しんでいます。昨年度、テレビで放映された「silent」や「星降る夜に」などのドラマで、聞こえる人も聞こえない人も、日本手話を使って、日常会話や愛を語っている様子に多くの人が魅了されてきた影響もあるのでしょうか。手話でのやりとりを若い感覚で受け入れている様子が見受けられます。手話を教える私も、できる限り、音声を使わずに、ろう者の人たちが普段使っている手話表現の魅力を伝えるようにしています。

また、「手話る」の中では、聞こえない、聞こえにくいということ、当事者から見てどのような状態なのか、どんな困難を抱えているのかに思いを寄せてほし

も、一人一人の特性には違いがあり、必要な支援方法や効果的なデバイスも違うようです。Nさんは、卒業研究テーマを、APDについてまとめる方向であり、現在、ゼミの中で、APDの特性をわかりやすく紹介するとともに、APDに関する先行研究や、教育現場における気づきや支援の必要性、現状と課題などについて、プレゼン発表をしてくれています。ゼミ生は、当初、初めて聞く「APD」という障害名に戸惑っていました。仲間の抱える困難さを理解しようと聞き入り、質疑応答も少しずつ活発になってきています。

見えにくい困難さに気づき、理解を深める

見えにくい困難さに「気づく」とか「理解する」ということは、簡単なことではありません。しかし、正しい知識・理解を深め、気づく力を少しずつ高めていくこと

いと願っています。この「思いを寄せる」とは、自分の想像力に頼り、判断するという意味ではありません。相手のことを理解したいと願い、関心を寄せることであり、自ら謙虚さをもって関わっていくことだろうと考えています。そして、もし、わからないことがある時には、「当事者から学ぶ姿勢」を自ら育んでほしいと考えています。

聴覚情報処理障害（APD）とは

本学の教育学部特別支援教育専修で、「聞こえているのに頭の中に入ってこない」という特性を持つっている学生Nさんがいます。Nさんは、自分のことをより深く理解したいと願い入学してきました。入学してまもなく、学生支援センター長を務める私のところに相談に来て、自分の特性について打ち明けてくれました。そして、今すぐに、合理的配慮を申請するわけではないが、先生にも周囲の仲間にも、自分の特性を知ってお

はできると思っています。当事者の子どもたちは、努力不足や他ごとを考えて怠けているわけでもありません。聞くことに集中もしていません。理解しようと思っているにも関わらず、先生やお友達の話し言葉など、必要な聴覚情報が頭に入っていないのです。そのことに周囲が気づくことは、当事者のかけがえのない可能性を拓くことにつながることです。

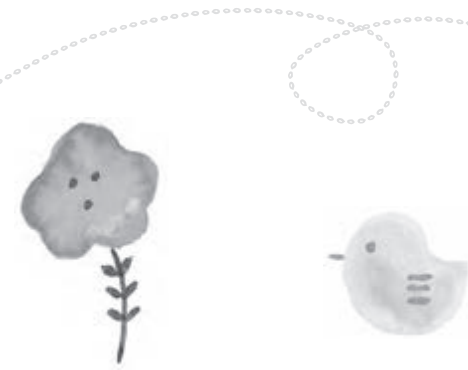
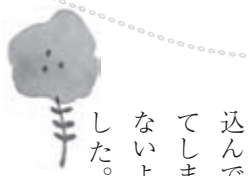
以前、この連載で少しふれたことがありますが、読むことに困難さがあるお子さんのお父さんが、「息子は確かに読むのは苦手で時間もかかるが、隣で読んであげればずっと理解し、自分で学習を進めていくことができる」と、自宅で毎日、本読みに付き合われました。決して、特別支援教育の専門家ではありませんが、息子さんの様子から、この子はさぼっているわけでもなく、むしろ勉強をしたいのだ、わかりたいのだと理解され、父親としてできることを日々続けてこられたのです。後々、学習障害（特異的発達障

害）の中に、「読字障害」があるというところにたどり着き、そこま

で、息子さんを責めることなく、本読みに付き合っただけで、肯定的に振り返ることができた時、お父さんもまた、ほっとされたようでした。

お子さんの困難さを、障害名や疾患名に置き換えること自体、大きな意味があるのではなく、お子さんが抱えておられる困難さを日々の様子から感じ取り、どのようなサポートがあればうまくいくのだろうと、いろいろ知恵を絞り、お子さんの可能性を信じて続けてこられた営みこそが、大切な時間であり、親子の信頼関係の構築につながっているのだと思います。

お子さんの困難さを、障害名や疾患名に置き換えること自体、大きな意味があるのではなく、お子さんが抱えておられる困難さを日々の様子から感じ取り、どのようなサポートがあればうまくいくのだろうと、いろいろ知恵を絞り、お子さんの可能性を信じて続けてこられた営みこそが、大切な時間であり、親子の信頼関係の構築につながっているのだと思います。





健やかな成長を願って

加茂郡川辺西小学校
養護教諭
村瀬 美由紀



本校の保健室では、毎日子ども達が様々な理由で来室します。その理由の多くは様々なヘルプです。「転びました」「ぶつかりました」「虫に刺されました」小さなすり傷から大きなけが等々。付き添ってきた子、心配して声を掛けに来た子も保健室に来ます。「大丈夫?」「大丈夫だよ」と心配してきた子は安心して教室に戻っていきます。他にも「服が汚れました」と言って着替えに来る子には「これからは気を付けてね」と声をかけます。笑顔で「ありがとうございます」

た」と言って教室に戻る子ども達を見送ります。そんな素直な子ども達のおかげで楽しい日々を過ごしています。一方で大事な子ども達を預かる身でもあるため、安全安心な学校生活が送れるよう毎日気をゆるめることはできません。新型コロナウイルス感染症が拡大している状況では、感染状況の把握や予防対策強化、暑い日が続くこと熱中症指数のチェックを何度も行います。そして一日を無事に終え下校していく子ども達の姿を見るとほっと胸をなでおろします。

した。そして昔も今も気になるのは生活習慣の乱れです。最近ではゲーム、ネット動画などのメディア視聴が子どもの生活に大きく関わっているように感じます。ゲーム、ネット動画などのメディア視聴により、就寝時刻が遅くなり、それに伴って子どもの体に必要な睡眠時間がとれていないという現実があります。睡眠時間の減少は体に大きな影響を及ぼします。睡眠不足は脳の発達を阻害することや、睡眠時に脳から分泌される成長ホルモンの量が減少し、体の成長にも影響を及ぼすことが分かっています。実態調査からも子ども達の睡眠時間が足りない現状が明らかになりました。

には、毎日の生活習慣を見直すことが必要と考え、川辺町養護教諭会では「川辺っ子元気週間」を年3回設け、生活習慣を見直す機会にしました。起床・就寝時刻、朝食菌みがきなどの生活習慣、ゲームやネット動画などの視聴時間をチェックし自分の生活を振り返ります。また、チェック表には本人の振り返りとともに保護者のコメントの記入もお願いしています。

り組んだことがありました。自分の都合により子どもを寝させるのが遅くなってしまったことも何度かあり、子どもがチェック表に「今度は早く寝るようにします。」と記入しているのを見て、子どもに申し訳なく思い、自分自身の時間の使い方を改めたことを思い出します。

でもらうと、子ども達のがんばりを認める素敵な言葉があふれ、あたたかい気持ちになります。また、質の良い睡眠を得るために推進している「寝る一時間前のメディアアストップ」の取組では、「家族みんなで取り組んだことで、ぐっすり眠ることができました。」という声や、「お母さんも早く夕飯の準備をするよう頑張ります。」といった声など、わが子への愛情溢れる励ましの声がたくさん記載されていて、本当にありがたかったです。

生活習慣の点検活動は「正直ちよっと面倒だな」と思われるかもしれませんが、忙しい毎日を振り返る良いチャンスととらえていただければと思います。

私自身も、成人したわが子が小学校に通っていた時、生活習慣の点検活動に取

子ども達の人生において健康づくりの基礎となる大事な時期に養護教諭として関われることに大きな喜びを感じます。同時に、子ども達の未来を預かっていることに大きな責任を感じます。健康は一朝一夕で築けるものではなく、長期的に取り組んでいかなければなりません。毎食後の菌みがきをとっても、「当たり前に行う」ことが習慣の定着だと思いません。生涯を健康に過ごしてほしい、幸せな人生を送ってほしいと願う、地道な呼びかけをこれからも行っ



1年生親子歯みがき



越えたい背中

恵那市立明智小学校

教諭 細江凜

私の「先生」は教師である両親です。知性と正義感にあふれ、たくさんの人に慕われている両親を小さな頃から誇りに思っていました。担任の先生になってもらったことにはないですが、ただ漠然と両親のような人になりたいと思ひ、小さな頃から教師を志していました。

学生時代は、仕事が忙しい両親に代わって祖父母に育てられました。そう言われると寂しそうに聞こえるかもしれませんが、家に帰れば祖父母が温かく迎えてくれ、祖母の作った美味しい夜ご飯を食べ、たくさんかわいがられたので寂しいと思つたことはありませんでした。父と母は夜遅く帰つては来るものの、私の話す学校での出来事を楽しそうに聞いてくれ、宿題で分からないことがあれば分かるまでとことん教えてくれました。もちろん、教師ということもあつてか、音読をさぼつたり宿題をやつたと嘘をついたり、人としてずるいことをすれば烈火の如く怒られました。両親からも、祖父母からもたくさん愛情を受け、普通の人の二倍大切に思つてもらつたと思つています。

母は私にとってドラえもんのような存在でした。何か困つたことがあつて泣きつくと、瞬く間に解決してしまうからです。夜遅く、学校で使う文房具や材料がないと言えば、どこからともなく出てくる必要な物たち……。面白い形の空箱、ビーズ、リボン、三角定規、雑巾、新しいノート……。そろわない物などありませんでした。そして、私に渡す時のちよつと得意げな母の表情が大好きでした。今思えば、母は教師として自分の学級の子どもたちに何か使えるのではないかと、常日頃から周りに目を光らせておいた物が生かされることに嬉しさを感じていたのだと思います。

成績が返ってくると母は私を膝の上に呼んでたくさんほめてくれました。生活の様子の〇がついている所を指さしながら、「どんな人にも同じ態度で、思いやりをもって関われることはとても大切で価値があることだよ。努力できることと、みんなに優しくできることはあなたのよきなんだからずつと大切にしてくね。」と話してくれたことを今でも覚えています。教師として成績をつける立場になつた今、家で子どもたちはどんな話をするのだろうかと思像しながら学習の歩みや生活の様子を綴っています。普段、仕事が忙しいお家の人もこの日だけは、子どもたちを自分の膝の上のせて頑張つたことや、いいところを話す。そんなきつかけになる成績であるといふなと思つています。

父との思い出は、なんといつても「作品作り」です。まずは夏休みの自由研究。父は理科の先生ということもあり、小学校一年生から中学校三年生まで毎年欠かさずに取り組みました。「夏休み」とはいいつつも、春休み頃から自由研究を始める日々。朝の六時に父とラジオ体操に行き、朝ご飯を食べてから夜の六時まで実験、考察の毎日でした。私の粘り強く物事に取り組み続ける根性はここで培われたのだと思います。加えて、毎日、記録と考察を書いて書いて書いて私は文章を書くのが好きになり、ついに国語の先生になってしまいました。私の人生の基盤になつているのが、この九年間の夏休みだったように思います。冬休みの書き初めも父の出番です。達筆な父に手本を書いてもらひ、何十枚と練習をしました。午前十時から夕方五時まで字を練習し続けました。抱負を手で覚え、心に染み渡らせる。新しい年の志を立てるには、まさにびつたりな一大行事でした。

自由研究にしろ、書き初めにしろ、これほどまでに一生懸命に取り組んだのは、父に感心してもらひたい、認めてもらひたいという、父への「憧れ」があつたからです。教師として「この人に認めてもらひたい」と子どもたちに思われる人間であることは欠かせないことだと思つています。それは、頑張りの原動力になるからです。私は、父のようなセンスのよさを持ち合わせていませんが、自分なりのよさを發揮して、子どもたちの憧れの存在でありたいと思つています。

教師として過ごす中で、たくさん悩み、自信を失つたことが何度もありました。そんな時、思うのは「父や母ならどうするのだろう」ということです。一番に子どもたちのことを思い、必死に働くあの二人ならきつと……と考えることは、私が前に踏み出す勇気と次なる目標を与えてくれます。両親のような教師になれる日はまだまだ遠いですが、いつかあの背中を追い越すことができるよう、ひたむきに努力していきます。

わが家の宝物

家族の宝物は、我が家に来てくれた子猫です。
なぜこの子猫が宝物なのかですが、実は以前、良い経験になるからと思い、長女を動物愛護センターに連れて行った事がありました。

そこで、長女は毎年多くの動物たちが捨てられ、殺処分されている現実を知り、大きなショックを受けました。

この経験から、長女の心には動物を守りたい、大切にしたいという想いが芽生えまし

た。そして、その施設が少しでも命を救いたいと新しい飼い主を探していることを知り、家に連れて帰り、飼ってほしいと言いました。でも十分に世話をすることができないと思

い、実現しませんでした。それから何年か経ちましたが、つい先日、妻が知り合いの人に子猫が産まれたので、飼

わないかと相談がありました。

私たちは迷いましたが、飼うことに決めました。子猫が家にやってきた時は、まだ生まれたばかりでした。子どもたちはネットで育て

方を一生懸命調べ、一緒の部屋で、同じ布団で寝て、愛情を注いで育てました。子猫ももう一歳になりますが、家族にとっても懐いており、私たちが帰宅すると愛ら

しく近づいてきて、今では、大切な家族の一員です。子どもたちにとって、生命を育む素晴らしい経験になっています。

それは、動物愛護という社会活動に触れた、子どもの心に芽生えた美しい想いでした。これからも子どもたちには、多くの経験を積んで、社会を知り、温かい心を育て、社会に貢献できる人になってほしいと願っています。



リレ エッセイ 25

川辺町立川辺北小学校 PTA

金澤 由希



母との思い出が我が子との思い出に

皆さんはご自身の幼少期を振り返ってみた時、どんなことを思い出されますか。私は、毎晩母に読み聞かせをもらったときのことをよく思い出します。そのおかげか絵本が大好きで、私も母のように上の子が0歳の時から絵本の読み聞かせをしてきました。

絵本にはハッピーストーリーやサクセスストーリー、思いやりやワクワクがいっぱいあります。子どものためと思って読んできましたが、自分自身も絵本に癒やされ、心にゆとりが生まれていることに気づいてからは、自分のためにも絵本を読むようになり、絵本は我が家の子育てに欠かせないものとなっています。

そんな絵本に私は二つの感謝があります。一つ目は、子どもたちの自己肯定感が高いということ。我が家には小三の娘と年中の息子がおりますが、二人とも「ゼロ番目に自分が好き！」だそう、タイプは違いますが自己肯定感が高いからこそだなと思う良い面をたくさんみせてもらっています。

二つ目は、子育てに自信が持てるようになったことです。以前の私は子どもたちとは正反対で自己肯定感が低く、自分にも子育てにも自信が持てず、人と比べてばかりでした。それが、ご縁あって一昨年絵本講座に出会い、絵本の力について学びを深めたことで、我が子のありのままに気づき、認めることができました。そしてそれらが絵本の力によるものだと知ったとき、今日まで読み聞かせを続けてきた自分のこともほめて認めることができました。おかげさまで、「子育てが楽しいです。」と心から言えるようになりました。

いつか我が子が大人になった時。何気なく、ふと毎晩の読み聞かせの時間を思い出してくれたら、こんなにうれしくて幸せなことはありません。私が母に愛してもらったように、私も子どもたちへたくさんの愛を、これからは絵本を通して伝えていきたいです。



次回は... 川辺町立川辺西小学校 PTA 木下 真衣さん

親子で共に成長するということ

私には2人の息子がいます。看護師である私とバス運転士の主人の勤務状態は常に不規則で、夜勤の時には隣に住む義母に依頼し、夕方から翌朝までみてもらう生活だったため、昼間だけでも負担をけないように息子が8か月の時から未満児保育に預けて働いていました。保育園では定期的な内科検診があり、長男は1歳半の時に心雑音を指摘されました。精密検査の結果、僧帽弁閉鎖不全症という心臓の弁がしっかりと閉じないため、一部の血液が左心室から全身に行かず左心房に逆流してしまう病気が見つかりました。年齢的に安静が守れないので、心臓に負担をかけるための内服が始まりました。主治医からは「自然に治ることはなく、経過によっては手術、一番良くて現状維持。もし、走るのが得意でも、ボールを蹴ることが上手でも褒めてあげないでください。この先続けることはできないので。」と言われショックを受けたことを覚えています。病気の悪化や命に関わる合併症、けがや虫歯治療後の抗生剤投与の必要性など色々と説明され、これから先の最悪の事態を考えてしまうと辛くなる日もありました。

息子が走り回る事にも神経質になる私に義母は「大丈夫、大丈夫。」と言って、息子と一緒に走り回って伸び伸びと遊んでくれました。何かに悩むときも私と

子供を客観的に見て親も成長しないと問題は解決しない事をこの頃から強く感じています。

この件で私たちに對する色々な噂も耳にしましたが、一番迷惑をかけたであろう相手から「私たちが仲良くしていれば噂はなくなる。」と言ってもらい救われました。この経験からの学びを生かし、トラブルがあった時には感情に任せて動く前に立ち止まって考えるように努力しています。義母は2年前に他界しましたがどんな姿でも義母の存在があるだけで心強かったです。息子は毎日朝晩、義父の家にある仏壇に手を合わせに行き、義父が寂しくない様に1時間ほど過ごしてくれまます。その姿を見ると子供は愛情をもって関わってくれた人から何かを学び成長していることを感じます。トラブルがあった友達が一番信用している仲間です。心臓病も悪化することなく経過し現在は内服

は違う方面から前向きな答えを出す義母は、頼りになる存在でした。長男が4年生になる頃、その義母がクモ膜下出血で突然倒れ、退院して家へ戻ってきた時は要介護5という全てに介助を要する状態でした。失語症もあり人が話す内容は理解できませんでした。言葉が失われました。そんな生活が一変する中、長男が布団の中で泣いている日が続き、学校に行きたくないと言いました。友達との関係が良くないことが原因でした。息子の話す内容は病気にも関わる事が含まれていた為、事実かどうか判断できず心配で正しい情報が分かるまでは学校を休ませました。その事を担任の先生に相談すると、事実確認のためにクラスで子供同士の話し合いの場をもって頂けました。そのおかげで実際にされて傷ついたこと、息子の悪かったところ、息子の誤解、息子を守ってくれた友達の前存在などが分かり、親子で反省することもできました。その反面、私たちの行動は関わった方に迷惑もかけてしまい申し訳なかったと思います。大切な存在であるほど感情が入り正しい判断が困難となり、誰かを傷つけたり意図せぬ方向へ進んでいったりしてしまう事があると学び反省もしました。感情が優先したことにより、心臓病の息子を守る事に執着し、人として大切な気持ち足りていなかった息子の一面を見落としていたと思います。

もなくなりありがたいです。

私は今年度PTA書記をさせていただいていますが、長男が中学生の時には副会長をさせていただきました。特に適任でもなく、やりたかった訳でもありませんでしたが、投票で当たるよりは自分で立候補したほうが前向きな気持ちで取り組めると思ったので引き受けました。今後巣立っていく子供のために今の時期にしか出来ない事は、快く受ける事を頑張っています。



PN. エピチリ (恵那市)



PN. 金太郎 (加茂郡)

question ①

出題・高田 瑞希 (各務原市)
〈答えは41ページ〉

答えはかんたん!
1+1+1+1+1は?

楽しい読み聞かせ

24

ドロップ'sの読み聞かせ

岐阜市立島小学校PTA

島小保護者OBや地域の方による読み聞かせボランティア「ドロップ's」。活動が始まったのは20年以上も前のことです。当時1年生保護者だった方から「『大きなかぶ』のエプロンシアターやりますよ!」という嬉しい申し出があり、そこからのスタートとなりました。

「ドロップ's」って?

「ドロップ's」という名前の由来は、ドロップ缶からきています。缶から何色のドロップが出てくるのかワクワク・ときどきしたあの感覚のように、子どもたちが「今日はどんなお話かな。」と読み聞かせの時間を楽しんでもらえるようにと命名されました。

たくさんボランティアさん

毎年、地域の回覧板で読み聞かせボランティアさんを募集しています。これまでにたくさんの方が参加してくださいました。80代のご夫婦が読み聞かせをしてくださったこともありました。「ドロップ's」の読み聞かせの日を、子どもたちは首を長くして楽しみにしています。



月に1度の楽しい時間

朝読書の時間に、各学年の実態に合わせた本を選んで読み聞かせを行っています。これまでに「ともだちや」「飛べないホタル」「いのちのまつり」「ものぐさトミー」「チーター大セール」「いのちをいただく」「かわいそうなぞう」など、季節



久しぶりの対面での読み聞かせ

コロナ禍は放送室から読み聞かせを行っていましたが、令和5年度からは従来のように子どもたちがいる各教室で読み聞かせを行っています。子どもたちはきらきら

最後に

した目でお話の世界に入り込み、お話が終わると「おもしろかった!」「今度は〇〇読んでー!」と大喜びです。自分で読むことが苦手な子ども、魅力いっぱいのお話を通じて本が大好きになります。

電子書籍等の普及で、読書形

態が少しずつ変化してきています。しかし、リアルな本にはそれにはかないよさがあります。今後も、地域とともに魅力いっぱいの本を通して、心豊かな子どもたちを育てていきたいと思っています。



子に先んじて

大垣市立時小学校

PTA会長 金森佳之

我が家には男の子が二人おります。子供たちは毎日テレビゲームばかり遊んでいます。口を酸っぱくして言い続けたおかげか、宿題は何とかやってくれてはいますが、それ以外の時間はテレビゲームしかやっていないように思います。親としてはもつといるんなことをやってほしいと願ってはいるのですが、なかなか思うようにはなってくれません。

では自分の子供の頃はどうかだろうと振り返ってみますと、私自身の小学校時代は、一年生の時に買った携帯ゲーム機を黒いカバンに入れて、どこに行くにも持ち歩いていました。その姿は地域の人たちの間でも有名で、「黒いカバンの子」と呼ばれていたように記憶しています。その位ゲームで遊んでいました。そう考えてみますと、なるほど全く子供たちに偉そうなことは言えません。むしろ宿題をちゃんとやっているだけでも本当はよく頑張ってくれています。そんな子供たちに私があればこれ注文を付けるべきではないか。

幼少期から同じ時間を共有し、同じようなものを食べ、寝食共にしたならば、似てくるのは当たり前なことだと思います。乳児から幼少期まで、保育園や幼稚園に通うまでの期間、子供の視界には常に親が入っているのではないのでしょうか。私たち大人はそれを考えての行動が出来ているのでしょうか。常に子供に見られている、子の鏡として生活が出来ているのでしょうか。

親も当然一人の人間です。完璧な生活などできないのは当たり前ですが、「子供に見られている」を意識するだけで少しの変化があるのではないのでしょうか。

子育ての中で目指していることは何ですか？と言う今回のお話を頂いたとき、自身を振り返り、子供たちにどう映っているのか、またどう映っていてほしいかを考えました。

結論的には「楽しむ」と言う事です。自分事ですが、地元の消防団活動、仕事では理美容業界での講師会活動、今は卒業しておりますが、青年会議所活動、そしてPTA活動や日常の仕事など、はたから見たら大変だねと言われるようなことも楽しんでやれば全く苦ではありません。

いのかもしれません。しかしいろんな経験をしてほしいというのは本心です。どうしたものでしょう。

何年か前から、私には一つ心掛けていることがあります。それは、やったほうが良いと分かっていることは、やる、という事です。皆様は当然の事と言われるかもしれませんが、なかなかどうして私にとっては難しいことなのです。何故かと言えば、やったほうが良いと頭で分かっている、やらない言い訳を探してしまうのです。やらなくてもいいことは、知識がない、難しい、お金が掛かるなどなど理由をつけてやらない方向に頑張ってしまう。消極的な私にとってそれが当たり前でした。けれどそれでは自ら世界を閉ざしているようなものだと思います。簡単に言えば面白くないですよ。今の時代、情報はあふれており、様々な物が驚くほど簡単に手に入りま

す。気になったことには何でも挑戦してみることが出来ます。たとえ失敗しても、努力して解決できたのなら、それはより一層嬉しいものです。大人になっていつの間にかその気持ちや忘れていました。例えば、私は二年ほど前から独学でピザを作って焼くのですが、

ある夜、自宅でWeb勉強会をしている時に次男から「なんで勉強が楽しいの？」と言われたことがあります。

確かに自分でも何で勉強が楽しいのだろうと思いましたが、二つの理由にたどり着きました。一つは一生懸命やっている。そしてもう一つは一生懸命やっている仲間とやっている。と言う事でした。

やはり一人ではできない事や面白い事も仲間と行うことにより、同じ話題に花が咲き、楽しみを見出し、達成感を共有できる事だと思えます。

自分が子供たちに見せている後ろ姿は友達を大切に、何をやるにも全力で楽しむ！と言う事が一番大きなところだと思います。息子たちとテレビゲームやドッジボール、競争やトランプ、色々と共にしますが自分常に全力でなをやっても負けたくありません。大人気ないと思われるかもしれませんが、大人が手抜きして勝っても子供は嬉しくありません。

何回かやっている間に段々と形や味が整ってきたように思います。子供たちも時々思い出しては食べたいと言ってくれるので張り合いを感じています。これは自分から挑戦しなければ得られなかったことでしょう。

これまでの私は、毎日仕事から家に帰ってくると、疲れたと言ってただらだと過ごしてしまっていました。今思えば子供たちにはそんな姿ばかり見られていたのでしょう。子供たちだって日中は学校に行っているのですから家ではだらだら過ごしたくもなるでしょう。そんな子供たちに「ただらだらしているなんてもったいない」と思わせることができるかどうかは、大人が子供たちに先んじていかに魅力的な経験ができるかにかかっているのではないのでしょうか。

一生懸命やることの楽しさ

中津川市立東小学校

PTA会長 篠原直樹

「子は親の鏡、親は子の鏡」と言われますが、親子はやはり似てくるものだと思います。

全力でやって負けた時、息子は心から喜びますし、自分は本気で悔しく、勝ち誇ったその顔を見ると本当に嬉しいです。

長男は来年には中学生、身長も追いつき、追い越され、勉強やゲーム等、色々と教えられなくなり、勝てなくなるだろうし、勝負する時間も無くなると思うと少し寂しい気がしますが、それこそが、わが子のあゆみ。なんだと実感し、今後も健やかな身体の成長と、友達を大切に、何事にも全力で一生懸命立ち向かい、全てに楽しみを持って育てていってほしい心の成長を楽しみにしております。

そして自分自身も子供たちにとっての父親の背中として更に大きく、色々なことに挑戦し楽しんでいく姿を見せ続けていきたいと思えます。





君たちはどう生きるか

漫画：羽賀翔一
原作：吉野源三郎
出版社：マガジンハウス

各務原市立鵜沼第一小学校PTA
勝野絵理奈



この本との出会いは、鵜沼第一小学校に長年ある「けやき文庫の部屋」で本を探しているとき、教頭先生に

「この本、お薦めですよ。」と教えていただいたことがきっかけです。けやき文庫には他にも、「教室はまちがうところだ」など、素敵な本がたくさんあります。その中から選んだ「君たちはどう生きるか」を読み、私は感銘を受けました。

この本の中で、著者は、現代社会では、多くの人々が迷いや不安を抱えながら生きているという現状を指摘しています。私たちは日常の忙しさや社会の価値観に翻弄されてしまい、自分自身の本当の望みや情熱を見失ってしまいがちです。

しかし、著者は人生の意味を見つめるためには、自己を知り、自分自身の内なる声に耳を傾けることが重要で、他人の期待や社会の評価に囚われず、自分自身の本当の欲求や価値観に忠実に生きることで、真の幸福や充実感を得るのだと説いています。

また、他者との関係や共感の重要性にも触れられています。他人とのつながりや思いやりを大切にすることで、自分自身の成長や幸福感を高めることができる。述べられていきます。私たちは孤独ではなく、共に生きることで、人生の本当の意味を見出せるのだと教えてくれます。

この本を読んで、自分自身と向

き合い、自分の本当の望みや情熱を見つめることの重要性を再認識しました。

また、他者との関係や共感を大切にするので、より充実した人生を送ることができると感じました。

「君たちはどう生きるか」は、人生の意味や目的について、深く考えさせられる本でした。友情や愛情、家族といった絆に焦点を当てたエピソードは、今の私たちにも共通するテーマであり、共感を覚えました。そして、様々な人々の価値観や人生観に触れることで、細やかな気づきを得ることができ、お互いを思いやりながら生きていくことが必要であると感じました。

主人公の、苦難や不条理を乗り越えながらも希望を追い求める姿勢は、心に勇気と希望を与え、他者との繋がりを大切にすることで、より豊かな人生を歩むことが出来るというメッセージを与えてくれました。この本をたくさんの方々に読んでもらいたいと思います。

読書は私にとって、新しい発見や学びの場であり、自己成長のための重要な活動です。これからも、様々な本に触れながら、知識や感性を磨いていきたいと思っています。

様を見せつけられるからではないかと思えます。それも胸が痛くなるほどに。

この作品の大きな特徴として、作者の目線から描かれることが挙げられます。主人公である、亮司や雪穂の周囲の人々の視点で物語が進んでいきます。その点をつないで、少しずつ明らかになっていく形で、読み進めていく読者は引き込まれます。亮司の心情や、雪穂の心情を直接描写しない中でも、二人が歩んできた道りが浮かびあがるように描かれていきます。

唯一、雪穂の心情に一番近づいた描写であり、またこの物語の一番心を揺さぶられた部分として、大人になつた雪穂が自分の部下に語る言葉があります。

「あたしの上には太陽なんかなかった。いつも夜。でも暗くはなかった。太陽に代わるものがあつたから。太陽ほど明るくはないけれど、あたしには十分だった。あたしはその光によって、夜を昼と思つて生きてくることができたの。」

その太陽に代わるものが何だったのか、また、なぜ雪穂の上に太陽がなかったのか、それを思うと胸が痛くなります。

この物語を読み、心を抉られるのは、幼い無垢な魂が傷を受けることへの苦しさです。白夜行以外にも、松本清張「砂の器」や、天童荒太「永遠の仔」など、少年少女の時の壮絶な経験がその後の生き方に闇を落とすことを描いた作品は多くあります。

白夜行

著者：東野圭吾
出版社：集英社

山県市立美山中学校PTA会長

藤木大樹



私とこの本との出会いは、2005年暮れです。映像化されるということで興味を持ち、手に取りました。作者は現代を代表するベストセラー作家東野圭吾さん。「白夜行」の一冊を読んで以降、東野圭吾作品を好んで読むようになりました。

この小説はミステリー小説でもあるので、いわゆる「ネタバレ」のないように書き進めたいと思います。

物語は1973年に大阪で一つの事件が起きたことから始まります。当時小学5年生だった、被害者の息子亮司、そして容疑者の娘、同じく小学5年生の雪穂が、何かを抱えな

少年少女ではなくなった私たち大人が、親となった今、この物語を読み、考えさせられることも何かあるのかもしれない。健やかな環境を愛する子供に与えたいと、誰もが当たり前前に思っていると感じていますが、それが可能ではない場合もあり得るのは、苦しいけれど事実としてあることです。

読み物として、ミステリーとして、大変面白く魅力的な作品ですが、人間の暗い側面が描かれており、心を抉られる作品です。しかしそれ故に哀切を帯びていて、大変ひきつけられる作品であり、読んだ後、深く考えさせられ、余韻に浸ってしまう作品として、この本を紹介させて頂きました。

Illustration&Quiz

イラスト&クイズ



PN. こはる子 (揖斐郡)



PN. シロワニ (岐阜市)

question

出題：堀華蓮 (高山市)
〈答えは41ページ〉

産まれて3年たつと
食べられるものは？

子の思い

楽しい学校クイズ

岐阜市立長良東小学校

2年 後藤直喜

僕は家に帰ると、毎日、お母さんと妹と今日の給食の献立を当て合う「給食クイズ」をしています。僕のお母さんもお仕事で給食を食べているけれど、献立は違うことが多いです。

クイズを出す時は、簡単になりすぎないように、難しくなりすぎないようにヒントを考えて出しています。その方がクイズを出す方も出される方も楽しめると思うからです。お母さんと献立が一緒の時がたまにあり、その時は嬉しくなります。また、食べていないメニューのクイズになると、食べるのが楽しみにになります。給食クイズの他にも、生活科の町たんけん、プール開きや長良東

小学校が今年迎えた50周年記念式典のこともクイズにして伝えることがあります。

新しく発見したことや楽しかったことなどをクイズにすることで、自分の思いを伝えるきっかけになると思います。また、小さい妹とも一緒に楽しく話することもできて、とても楽しいです。これからも楽しいクイズを出したいです。

わんぱく山

可児市立南帷子小学校

6年 林寛太

ぼくたちの学校には、わんぱく山という山があります。わんぱく山は、南帷子小学校の誇りで、みんなから愛される山です。

わんぱく山では、毎年「秋見つけ」や「遊具づくり」など、様々な活動をしています。ぼくたちは、五年生の時に、森林文化アカデミーの方々

に教えていただきながら、山で自然

いっぱい遊具を作りました。最初は木や竹を切ることから始め、一日半かけて遊具を完成させました。完成した遊具は、全校のみんなに紹介し、一緒に遊びました。遊び終わった時に、たくさんの人たちから「楽しかった」「また遊びたい」という喜びの声を聞きました。遊具をがんばって作ってよかったなと思えました。

わんぱく山はぼくたちの宝物です。ぼくたちが卒業しても、わんぱく山での活動が続き、来年入ってくる一年生にも「わんぱく山は、こんなにすごいんだな」と思われ続ける山であってほしいなと思います。

花いっぱい、笑顔いっぱい

多治見市立小泉中学校

3年 小栗遥音

私が通っている小泉中学校では、

今年度から「小泉ボランティアズ」というボランティアチームができました。私はそのチームに加入して、地域のためにいろいろ活動をしています。例えば、アルミ缶・牛乳パック回収をしたり、地域のイベントにボランティアとして参加したりしています。

これらの活動の中でも、私は「花いっぱいプロジェクト」という活動に一番力を入れて取り組んでいます。この活動は、ボランティアズのメンバーでどんな苗を購入するか計画を立て、プランターに寄せ植えをし、校内で育てるという活動です。今後、メッセージを添えて福祉施設へ贈呈しようと考えています。

私がこの活動の中で特に頑張っていることは水やりと花の手入れです。毎朝登校時間よりも早く登校して花と土の様子を観察しています。土が乾いていたら水をあげ、枯れている花があったら取り除く

親の願い

親の願い

下呂市立馬瀬小学校

PTA会長 村山弘明

親としての私の願いは、愛情とサポートを通じて子供たちが健やかに成長し、幸せな人生を歩んで欲しいという事です。

私は子供たちが自己愛や他者を尊重する優しい心を持つて欲しいと思っています。人間関係を築く上で基礎となる思いやりや優しさを育

む事で、子供たちが他人に対して共感し、協力することが出来るようになっていくでしょう。

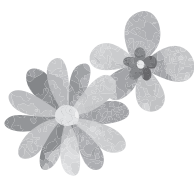
人間関係の中での喜びや困難を共有し、お互いを助け合えるような子供たちに育って欲しいと願っています。

もちろん、子供同士だけではなく地域の人たちとも交流し、様々な年代の考えを学んでいくこともとても大切なことだと考えております。

また、私は子供たちが精神的な強さを身に付けて欲しいと思っています。ストレスや不安に直面した時にも、適切な対処方法を身につけ、自

す。例えば、最近では私たちの活動を知った公民館の方がアルミ缶回収の日にアルミ缶を持ってきてくださるようになりました。これからは、福祉施設への花の贈呈や資源回収のボランティアを通して地域とのつながりをさらに強めていきたいです。

私たち中学生が地域の活性化のために積極的に活動していくことが大切なことだと思えます。

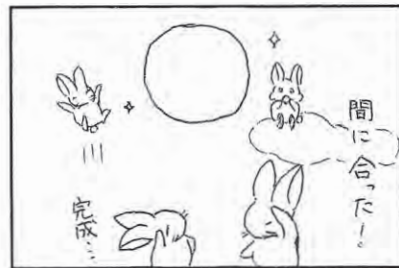
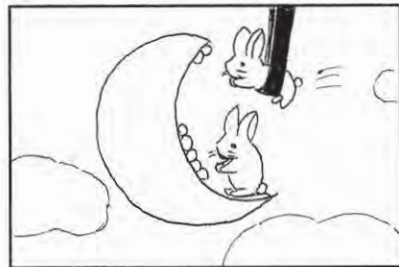
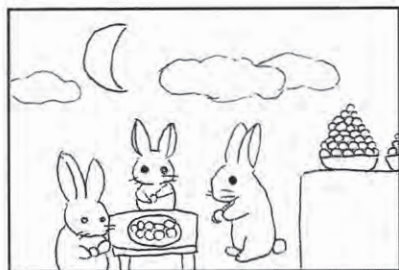


ようにするなど、細かく観察し、手入れしています。

毎朝、元気に咲いている花を見ると、私は元気をもらえて、「今日も一日頑張ろう」と思うことができます。私は花を見てくれた人と同じように感じてもらい、笑顔になってほしいなと思っています。だから、福祉施設に贈呈するまで大切に育てていきたいです。そして、花を贈呈した施設の人たちにも笑顔になってもらいたいです。

今、小泉ボランティアズの活動は校内での活動がほとんどですが、地域との関わりも増えてきていま

満月の十五夜



逆さ言葉

ひるめしのたのしめるひ

(昼飯の楽しめる日)

富田 龍弥 (損斐郡)

自身を守る力を持てるようになることが大切です。また、心の柔軟性や自己肯定感を養うことで、困難な状況になってもポジティブに考えることが出来るようになるのではないかと考えております。

しかしながら、SNS等のネット社会になり間違った自己肯定や、顔の見えない相手への対処など私たちの親の世代が学んできた今までは取り巻く環境が変わっているのも事実です。子供と共に親も一緒になってしっかりと考えていかないとはいけません。

何よりも子供が一人で抱え込まず、親をはじめ周りの誰かに相談できる環境をしっかりと作っていくことも大事な仕事だと感じています。

最後に、私たちは子供が幸せを感じることが出来る社会を作りたいと思っています。差別やバイアスのない包括的な社会になっていけば、子供たちは自分自身と他者を受け入れることが出来るはずです。また、持

続可能な未来の為に環境に配慮し、地域社会に貢献していく意識を持つことも大事だと考えております。あれをしなさい、これをしなさいと頭ごなしに伝えるのではなく、一緒にしようという親である自分も言った事をやって見せていくことも大切なのだと思います。

以上が、私の親としての願いです。子供たちが愛情に満ちた家庭で成長し、自己を大切にしながら社会に巣立っていくことが出来るように、私たちは全力で支えてあげたいと思っています。

子に身に付けてほしい力

各務原市立緑陽中学校
PTA会長 中島路世

私には、子供が3人います。上の子供たちはもう成人しています。上の子供の時は、個々の自主性を尊重し、お互いを認め合い、心を豊かに

していく、そんな学校生活を送って来たのでは？と感じていました。

しかし、3年前「新型コロナウイルス」によって、学校生活、私生活が一変してしまいました。あの時の不安は、大人も子供も回り知れない出来事でした。大人さえ悩み苦しんだ時期だったのではないでしょうか？コロナ禍で、学校が全国で休校になりました。うちの子供は、一週間で家の中の生活に飽きてしまったのか知らぬ間に、近所の子供たちと集まっていたのです。私が仕事から帰ってきて目に飛び込んできた風景(近所の子供という子供)に思わず、「何をやっているの！」と怒る気持ちを抑えて「何しているの？」と子供たちに問いかけました。「勉強している。」「勉強していることは良いことだけど、何で集まってしているの？」「みんなで勉強するとやりやすいから」と子供は答えました。いやいや、今の世の中の状況ではダメでしょうと思い、子供たちにどのよ

うに説明しようか考えながらやり取りをしました。そのやり取りの中で、一人の子供が、「大丈夫！だってマスキュルしているし、外にいるし、近くにいないし。」と言われ戸惑いながら説明しましたが、しまいには、「テレビで言っていたでしょ。総理が人との接触は控えてくださいって。だから、学校も休みなんだよ。だからダメなの。」と言っていました。

なんとも歯切れの悪い説明で終わらせてしまいました。私自身もモヤモヤしている感じで、子供たちもあまり納得いかない表情でした。頭ごなしに言い過ぎたのかな？子供たちも子供たちなりにいろいろ考えて行動したと思います。この3年間、本当に親も子供もコロナ禍の中で、今できること、諦める勇気など、いろいろ考えさせられる時期でした。

その中で、親も子供も考え抜く力、生き抜く力、そのような力を身に付け、強くなっていっていったのではないかと感じました。

だからこそ、子供には、コロナ禍の中で身に付けた力を活かし、心豊かに、強くたくましく育ってほしいと願っています。

教育の窓

通級指導教室について

垂井町立宮代小学校
通級指導担当 西村 由紀

LD・ADHD等通級指導教室(以下通級)の担当となって、6年目になります。現在は、巡回型通級の担

当として2校巡回しています。

通級の対象となる子はいろいろな特性(行動面や認知面での特徴)があり、学校生活の中で困っていることがあります。その子が自分の特性を理解し、どのようにしていくと自分が困っていることが減っていくのかを一緒に考え、サポートしていく場が通級です。一人一人の苦手なことに対する支援を行い、できることを増やしていきます。学校の中で苦手を感している子が増えているため、通級している児童数は毎年増えています。

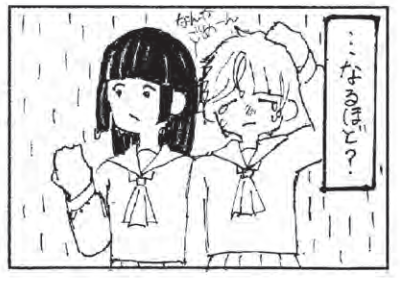
通級の指導内容は、個人の実態に

応じて多岐にわたります。授業中離席したり、休み時間に仲間とのトラブルを起こしたりする子には、イライラしたときの気持ちの切り替え方を学ぶ「アンガーマネージメント」や社会性を身に付けるための「SST(ソーシャルスキルトレーニング)」を行います。また、マスの中に文字を書いたり漢字を正しく写したりできない子、音読がたどたどしい子には、「ビジョントレーニング」を行います。知的な遅れはないけれど、自分で文章を読んで理解することが難しく、誰かに文章を読んでもらったら理解できる子もいます。そ

の子たちの中には、音声教材を利用したりICTを活用したりすることで学習をスムーズに進められる子がおり、その使い方の練習をします。低学年でICTの活用が難しい子については、保護者や学級担任と話し合っ、漢字を正しく書くことを強要せず、ひらがなで書くなどできることを増やす支援を考えています。

通級児童の保護者の中には、「医療機関等に相談してできることはやっていこう。」と専門的な支援を求めて動いてくださる方、「我が子の様子を受け止め、将来困らないようにしていこう。」と先を見据えて

いつもは持ってきてるのに!!



逆さ言葉

よるまるくるまるよ
(夜、丸く包まるよ)

赤堀 晴輝 (岐阜市)

子供が学べるチャンスを
見逃さない

土岐市立肥田中学校
校長 鈴木雄詞

考えてくださる方がみえます。我が子の実態を前向きにとらえ、理想とする姿を目指して家庭でできることをやっていただけると、子ども自身が苦手なことに対して工夫したり、状態が改善したりするのが早いと感じています。
ADHDや発達障害、学習障害は、本人の努力だけでは改善されません。その子に合わせて周りの環境を整えることが一番の効果的な支援と言われます。家庭と学校、時には専門機関が連携して環境を整えていくことが大切です。障がいの有無に関わらず、もし、お子さんについて何か心配やお困りなことがあるときは、学級担任または、特別支援コーディネーターに相談してみてください。きっと良い方法が見つかると思います。

宮沢賢治の有名な詩「雨ニモマケズ」をパロディーにし、世の中を皮肉った「雨ニモアテズ」という詩を紹介いたします。この詩は、賢治のふるさと・岩手県盛岡市の小児科の医師が学会で発表したもので、作者は不詳です。【原文はカタカナです】
雨にもあてず／風にもあてず／雪にも夏の暑さにもあてず／ブヨブヨの体にたくさん着込み／意欲もなく体力もなく／いつもブツブツ不満を言っている／毎日塾に追われテレビに吸いついて遊ばず／朝からアクビをし集会があれば貧血を起こし／あらゆることを自分のためだけ考えて省みず／作業はグズグズ注意散漫すぐに飽き／そしてすぐ忘れ／立派な家の／自分の部屋に閉じこもって

いて／東に病人あれば／医者が悪いと言いつつ西に疲れた母あれば／養老院に行けと言いつつ南に死にそうな人あれば／寿命だ（からあきらめろ）と言いつつ北にケンカや訴訟があれば／眺めて関わらず／日照りの時は冷房をつけ／寒さの夏もウロウロ夜遊び／みんなに勉強勉強と言われ／叱られもせず／怖いものも知らず／こんな現代っ子に／誰がした
私がこの詩を初めて見たのは20年以上前、新聞のコラムで紹介されていました。皆さんはどう感じになりましたか？大人が子供の社会に入り込みすぎると、「こんな現代っ子」が生まれるという警鐘ではないでしょうか。今でも子供が様々な事象や人と関わる機会に大人が先に手を出したり口を出したりしている姿を見かけます。
例えば、こんな光景をよく見ます。公園で娘をブランコで遊ばせているとき、近くの男の子が「かわって。」

と言っているのに、我が子は無視してかわろうとしません。そこで母親は「かわいそうでしょ、いじわるしないでかわってあげなさい。」と促します。後でなぜかわらうとしなかつたか聞くと、「前、何回言ってもかわってくれなかつたから。」と娘は言いました。もし母親が口を出さなかつたら、娘は「いやだ。」と言いつつ、男の子は「なんで？」と聞くことができたでしょう。そうすれば、娘は「だってこの前ずつとかわってくれなかつたでしょ。」と言えます。さらに、男の子は、かわってもらえない理由がわかり、過去の自分の行動を振り返って、自ら「ごめん」と言えたかもしれません。ここに対話があり学びがあると思います。
親が子供を見守るのはマストですが、子供同士で解決できそうなどときは、子供が成長する機会を奪わないように慎重に見極めたいものです。

思いやりの心を大切に

神戸町立下宮小学校PTA会長 松岡 卓司



子どもたちと一緒に毎日実践している『わが家のルール』を二つ、紹介します。
一、家族であいさつを交わすこと
朝起きたら「おはよう」、誰かが出かけるときは「いつてらっしゃい」、夜寝る前は「おやすみ」…。最近では家中でも、それぞれ別々の事をして過ごしている子どもたちですが、あいさつを通して家族の心のつながりを大切にしています。社会に出て、自分から進んであいさつのできる、温かい心をもった人になってほしいです。
二、進んで生き物の世話をする
わが家にはたくさんさんのペットが暮らしていますが、子どもたちも分担してそのお世話をしています。生き物を育てることは、命を預かるという責任を負うことです。一度フクロモモンガが大きな手術をしたとき、子どもたちは毎晩添い寝をして、一緒に面倒をみてくれました。小さな命を大切にできる子は、きっと誰に対しても、優しい心で接することができる人になると思っています。



WITHTHコロナではありますが、マスク着用が個人判断となりいつでもマスクを外せることで気持ちが解放された気がします。今までできなかったイベントや行事など、子供たちの楽しみがどんどん増えて世の中が明るくなっていくように、親としてもとても嬉しいです。
ところで、我が家には3人の息子がいます。大学1年、高校2年、中学2年の子供たちです。大学生になった長男は4月から群馬県の大学へ進学しましたので、今は残る次男三男と私たち夫婦の4人暮らしです。我が家には長男も守ってくれていた約束があります。
①食事中にスマホを触らない
食事中にスマホを触ることは行儀が悪いからです。せっかくの団欒、子供たちと話したいことはたくさんあります。
②おじいちゃんおばあちゃん誕生日には顔を見せて「おめでとう」を言う
祖父母があつて、今のほくちがいること。感謝です。みんなで会って気持ちを言葉で伝えることは、とても大事なことです。
③お小遣いは正座をして両手でもらうこと
大学生になった長男は仕送りという形になってしまいましたが、高校生まで正座でもらっていました。なので、お金をいただくという姿勢はできているのではないかと思います。渡すときは、親も正座です。お父さんの給料日はほくちのお小遣いの日、みんな楽しみな日です。頑張ってお父さんが稼いだお金、大事に使ってほしくて、一人ずつ和室に正座をして受け取ります。

関市立緑ヶ丘中学校PTA 那須 孝恵

～約束は親の切実な願い～



これが我が家の約束の一部です。約束は子供の親の思いが詰まっていると思います。大人になったときに恥をかって欲しくないから、約束ごとを作って当たり前になるようにする。それが約束に込められた思いです。

那須家の巻

129



なすとトマトのチーズ焼き



岐阜県学校栄養士会・(公財)岐阜県学校給食会

子どもたちの苦手ななすとトマトが、美味しく食べられるように工夫しました。なすとトマトに子どもたちの好きなミートソースを挟み、とろけるチーズを散らして焼きます。

なすは、おなかの調子を整える食物繊維がたくさん含まれています。鮮やかな紫色をした皮には、ナスニンと言われるポリフェノールが含まれていて、免疫力を高めてくれます。

トマトは、赤い色のもととなるリコピンが多く含まれていて、生活習慣病の予防に役立ちます。油と一緒に加熱することで体内に吸収されやすくなります。

なすやトマトを食べて、健康な体を作りましょう。



作り方

- 1 なすは厚さ5ミリ幅で斜めに切り、水にさらす。トマトは半分に切り、5ミリ幅に切る。たまねぎはみじん切りにする。
- 2 鍋にサラダ油を熱し、豚ミンチを炒め、赤ワインを振り入れる。たまねぎを加え、透き通るまでよく炒める。塩・こしょうをふり、コンソメ顆粒、トマトケチャップ、水を加え水分がなくなるまで煮込み、ミートソースを作る。
- 3 フライパンにサラダ油を熱し、なすを焼く。塩・こしょうを振り、両面を焼き、取り出す。
- 4 トマトもなすと同じように、両面を焼き、取り出す。
- 5 グラタン皿に、なす、ミートソース、トマトの順に重ね、とろけるチーズを全体に散らす。
- 6 とろけるチーズに焦げ目がつくように、焼く。(オーブンで220°C10分程度、オーブントースターでもよい。)仕上げに乾燥バジルを振りかける。



材料

【材料】(4人分)

- なす……………1本(110g)
- トマト……………大1こ(250g)
- サラダ油……………大さじ1
- 塩・こしょう……………少々
- ※ミートソース
 - 豚ミンチ……………120g
 - サラダ油……………小さじ1
 - 赤ワイン……………大さじ1
 - たまねぎ……………1/2こ(100g)
 - 塩・こしょう……………少々
 - コンソメ顆粒……………小さじ1
 - トマトケチャップ……………大さじ2
 - 水……………カップ1/4(50cc)
 - とろけるチーズ……………50g
 - 乾燥バジル(あれば)……………少々

●栄養価(1人あたり)

エネルギー……………	172kcal
たんぱく質……………	10.6g
脂質……………	10.6g
カルシウム……………	173mg
鉄……………	0.5mg
亜鉛……………	2.2mg
ビタミンA……………	61μgRE
ビタミンB1……………	0.29mg
ビタミンB2……………	0.17mg
ビタミンC……………	13mg
食物繊維……………	1.8g
食塩相当量……………	0.8g



9月号の

親子ではてな



Q1 この中で本当にある柿の品種はどれでしょうか?

- ア 次郎
- イ 三郎
- ウ 五郎



Q2 「秋桜」と漢字で書くお花がありますが、これは何と読むでしょうか?

- ア ダリア
- イ コスモス
- ウ ラベンダー



応募方法

応募者は、はがきで、9月末までに下記の宛先へお送りください。
(1人1枚・当日消印有効)
※クイズの答えは1問だけでもOKです。

宛先 〒500-8816
岐阜市菅原町3-3
岐阜県校長会館内
岐阜県PTA事務局
「わが子のあゆみ編集部」

なお、応募はがきには「わが子のあゆみ」への感想・意見やなぞなぞの問題と答え、逆さ言葉などを記入してください。

●9月号クイズの答え

- 郵便番号・住所
学校・学年・氏名
保護者名
- 『わが子のあゆみ』
への感想・意見
- 「なぞなぞ」の
問題と答え
- 逆さ言葉

7月号クイズ答え

Q1 (イ) Q2 (ア)

7月号のクイズ当選者

中村 心音(岐阜市) 土一 未岬(安八郡)
深尾 美帆(岐阜市) 市村 優成(関市)
小林 愛奈(羽島市) 土屋 美賀(関市)
木村 陽平(各務原市) 八木 啓介(関市)
木村 恵美(各務原市) 鈴木 怜実(郡上市)
斉藤 結愛(各務原市) 玉腰百々子(郡上市)
勝 咲来歩(不破郡)

なぞなぞの答え

- ①かんとん
- ②山菜(三歳)

歴史と自然が豊かな鏡島小

鏡島小学校区には中山道が通り、古くは鏡島城や鏡島湊がありました。鏡島弘法として親しまれる乙津寺や、かつては縁日の参拝者が多く利用したという小紅の渡しなどが今も残っており、歴史の香りのする校区です。

また、鏡島では、毎年二月に「ぎふ鏡島長良川凧揚げ大会」が開かれ、中学生と小学生も参加して、地域の方と凧揚げを楽しみます。

学校の校庭を流れる論田川は、四季折々の花が咲き、四年生がカワゲラウォッチングを行ったりする自然豊かな川です。毎年、地域の方や小中学生が一緒になって清掃活動を行っています。川が身近にある鏡島は、昔から長良川の被害や論田川の改修など、災害から身を守る工夫をしてきた地域でもあります。今年150周年記念行事を行う鏡島小学校では、地域の各種団体や企業が講師となつて、防災をテーマにしたイベントや学習会を行うことになっています。

歴史や自然を通して地域の方とのつながりが強い鏡島小では、地域の方から、伝統や文化を守ることの素晴らしさを感じたり、地域の安全のために努力をしている人々の思いに触れたりしながら、子どもたちが心豊かに育っています。

ぎふMIRAI's

岐阜市では、本年度から、すべての小中学校で「ぎふMIRAI's (みらい)」が本格始動しました。生まれ育った岐阜の街を舞台に、市の歴史や自然、伝統文化などを小中の9年間で体系的に学ぼうという取り組みです。鏡島小学校でも、精華中学校と連携して、左記のような事業を総合的な学習の時間や各教科で行っています。

一年「地域の自然に触れる」

論田川の水辺の豊かさなど、地域の自然の素晴らしさを知り、ふるさとへの関心を高めます。

二年「地域の文化に触れる」

凧揚げなど、風土に根付いた文化に触れながら、ふるさとの良さを体感します。

三年「ふるさと探検隊」

鏡島に古くから残る歴史や文化に触れ、地域の人とふれあい、地域の良さを守る人の工夫について学びます。

四年「故郷を知ろう！自分を知らう！」

論田川の水質調査や自然環境の学習を通して、自分の生活と環境のかかわりを見直します。

五年「守ろう命・学ぼう防災」

地域に起こりうる災害について学び、災害に備える地域の人々との交流を通して、いのちを守る大切さを自分ごととして学びます。

六年「かがやく未来に向かって」

福祉に携わる地域講師から、みんなが地域でともに生きることの大切さについて考えます。

小中のつながりを踏まえたダイナミックなぎふMIRAI's

精華中学校区では、小学校で歴史や自然への関心、防災意識を高め、さらに、中学校でその知識や体験を活かして、防災学習や平和学習へと発展していくように連携して取り組んでいます。地域で表彰していただける「グッドアクション カード」をもつてボランティアに参加する多くの中学生の姿を見て、小学校の子どもたちは育っています。

地域と連携して「ふるさと大好き！」という地元愛を育み、中学生になったら地域や人に自ら貢献しようとすることができ「鏡島っ子」となっていくことを願っています。



▲【田植えから餅つきまで】
地域の方に教えていただいて頑張っています。



▲【論田川でカワゲラウォッチング】
運動場から毎日見ている論田川ですが、
たくさんの生物がいることに驚き、
また、もっと川をきれいにしていきたいと思いました。



▲【論田川の清掃活動】
地域の方や、中学生、高校生に交じって、
小学生も参加します。



▲【5年生の防災学習】
地元の消防団や消防隊の方から学びました。



▲【ぎふ鏡島長良川凧揚げ大会】
2年生が作った連凧や、
伝統の虹凧が青空に舞います。



【鏡島探検】
地元の「弘法様」や神社、井戸も、
地域の方からお話を聞いて、
新たな発見があります。



▲1年生が長良川堤防で楽しく虫捕り。



▲靴をきれいに揃えて
本堂にあがります。
神妙な気持ちで礼儀正しく。

ぎふMIRAI's 地域で学ぶ

笑顔広がる 親子で茶摘み体験

32年前から、校区の「平塚香貴園」のご協力で、地元の産業を知ることがを目的に学習しています。親子で摘み取った茶葉は、最終的には児童自身が手もみをした後、天日干しをしてお茶にします。「お茶のいい香りがした。」「昔を思い出しました。」と笑顔と会話が広がりました。



【親子で新茶芽摘みの様子】



【全校なかよし遠足の様子】

保護者と地域の人と一緒に

毎年、地域の方がボランティアとして、PTAと一緒にプール掃除をして頂けます。その他にも資源回収や樹木の剪定などいつも子どもたちのために応援してもらっています。その姿をみて児童は、地元への愛情を膨らませています。



【ボランティアの人とプール掃除の様子】

多良小学校は、良い学校。憧れのハワイ航路で有名な江口夜詩さん作詞作曲の校歌の一部です。全校児童57名で、元気よく歌っています。友達、先生、保護者、地域との絆が自慢の学校です。



全校でなかよし遠足・班遊び

新1年生を迎えて、全校で「かみいしづ緑の村公園」へ遠足に行きます。全ての学年それぞれ1名から2名が集まって「なかよし班」を作ります。月1回のなかよし班遊びは、学年を問わずみんなが大好きな時間です。

スマイルカードとキラリカードとキラリの星で良いところ見つけ

スマイルカードは、友達のよいところを見つけ、カードを書きます。そのカードは毎日お昼の放送で全校で紹介します。また先生からも良いところをキラリカードに書いて渡しています。さらに家族の人にはキラリの星カードに良さを書いてもらいます。みんなで毎日よいところ見つけです。



【3世代天体観測の様子】

3世代で観測、442年ぶりの天体ショー

多良小学校の校庭には、天文台があります。これは、今から13年前に宇宙航空研究機関（JAXA）の的川泰宣名誉教授から、「多良小学校の運動場は星の観察に最高ですよ」と教えてもらったことをきっかけに、地元の人が力を合わせて作ったものです。毎月第3土曜日には、星空鑑賞会を開いています。昨年11月8日には、442年ぶりの皆既月食と天王星食を観ることができました。

男子バレーボール部



僕たち男子バレーボール部は、東海大会出場が目標です。この目標を達成するために普段の練習で「あきらめないこと、努力、声を出す」の3つを大切に、目標達成のためにがんばります。

ソフトボール部



ソフトボール部では、楽しく笑顔で声を出すことを大事にし、活動しています。人数が少なく、野球部と合同練習をしていますが、毎回一人一人が楽しく笑顔を絶やさず練習しています。今年の夏で廃部になってしまいますが、最後まで精一杯がんばります。

女子バレーボール部

女子バレーボール部では、毎日笑いが絶えない楽しい練習をしています。日々の練習では、アドバイスをしあったり、声を出したり、チームの仲間と支え合って目標に向かってがんばっています。



野球部

野球部では現在12名で活動しています。練習では、まず挨拶・礼儀を大切にしています。そして、練習のための練習ではなく、試合に勝つための練習をすることにこだわってきました。合同チームの仲間と全国大会に出場することを目指してがんばります。



剣道部(男女)



剣道部では、男女ともに県大会出場を目指して全力で取り組んでいます。練習では礼儀を重んじ、雰囲気よく取り組むことを大切にしています。剣道だけでなく生活面でも返事やあいさつにこだわっています。男女仲良くチーム力を高め、目標に向かってがんばっています。

卓球部(男女)



卓球部では、「一球入魂」という目標で活動しています。また普段の部活から準備・片付けを率先して行うことを意識しています。今後の大会に向けて一人一人が目標を持ち、より良い結果を出せるようにがんばっていきます。

4月7日入学式



4月27日交通安全教室



4月21日一年生を迎える会



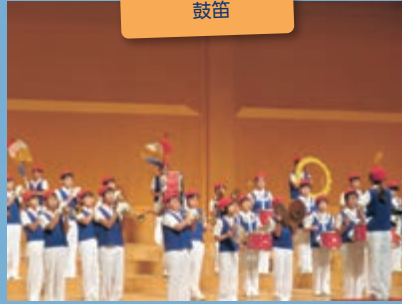
5月19日命を守りきる訓練



リサイクルひろば



鼓笛



1. はじめに

福寿小学校は羽島市の中心に位置し、交通の便が良いです。長良川が流れる水と緑の豊かな自然に恵まれています。近年、住宅地が広がり児童数が増えています。今年の全校児童数は516人です。各学年3クラスずつあります。

本校は創立150周年を迎えます。長い歴史と伝統が受け継がれています。その中でも、『鼓笛』は特別な存在です。毎年、引継ぎ式が行われます。6年生は学校や自宅で1年間練習した鼓笛を福寿唱や地域行事で堂々と披露しています。6年生からすばらしい伝統と責任を引き受けた5年生は楽器の使い方や演奏のコツなどを教わりながら引き継いでいきます。

2. 令和5年度PTA組織・活動計画

- ・【本部役員】 会長1名、副会長2名、書記2名、会計2名
- ・ 学校運営のサポート
- ・ 各委員会と連携・調整
- ・【校外・健安委員】 委員長1名、委員18名
- ・ 巡回指導
- ・ 下校時の安全指導(福寿見守り隊の活動)

・【広報委員】 委員長1名、委員18名

・ 広報紙「ふくじゅ」年2回の発行に伴う活動(学校行事の写真撮影、文章作成)

・【学級・学年委員】 委員長1名、委員18名

・ 学校行事への協力

・【家庭教育委員】 委員長1名、委員18名

・ 給食試食会

・ 給食エプロン点検、修繕

・ 鼓笛衣装直し

・【地区委員】 委員長1名、委員29名

・ 登校班指導

・ 巡回担当、登校指導当番表作成

3. 活動の様子

福寿小学校PTA活動目標は「子どもと共に学び、共に成長しよう」です。行事や活動を通して親子のふれあいを楽しみ、子どもの成長を感じながら親も成長できるそんなPTAを目指したいです。家庭・学校・地域が協力し子どもたちの成長を温かく見守ってまいります。

がんばる子らの 汗と笑顔と眼差しと

多治見市立滝呂小学校



児童会行事 謎解き探偵

松丸亮吾さんプロデュースの「謎解き探偵」を行いました。校舎内に貼り巡らされた「謎」を縦割り班で解いて巡ります。どのグループもルールを守り楽しく活動することができました。また、毎年9月ごろに、「じゃんけん滝呂城」という活動も行っています。



出初め式

4年生が出初め式に参加しました。多治見市内の小学校代表として大活躍でした。行事に参加することによって、地域活動への貢献について学ぶよい機会となりました。



あいさつで絆の日・
リサイクル強化DAY

まちづくり市民会議の方とPTAの方の協力のもと、7月と11月に行っている活動です。さわやかで元気いっぱい挨拶で、とても気持ちのよい素敵な登校時間を迎えることができました。また、子どもたちは、アルミ缶や牛乳パックを一生懸命に持ってきています。とてもたくさん資源が集まりました。



食育指導
セレクト給食

給食は、校舎内で作っています。卒業のお祝として「セレクト給食」が行われました。6つの食品栄養素群からバランスよくメニューを選んで、好きなものを食べるという企画です。他の学年でも、学校栄養職員による食育指導を行っています。また、高学年は「学校給食メニューコンクール」にも積極的に参加しています。



機関誌「わが子のあゆみ」
令和5年度 初秋号
第75巻2号 通巻477号

発行／令和5年9月1日 岐阜県PTA連合会
〒500-8816 岐阜市菅原町3-3 岐阜県校長会館内
電話／058(262)3257 FAX／058(262)3259
Eメール／info@gifu-pta.jp ホームページ／<https://gifu-pta.jp>
編集／岐阜県PTA連合会広報委員会「わが子のあゆみ」編集部
印刷／サンメッセ株式会社